

「市立小・中学校の将来のあり方の検討」について

1. 目的

児童生徒数が年々減少し、小規模な学校が増えていく現状を広く周知するとともに次代を担う子どもたちにとってより良い教育環境となるよう小・中学校の将来のあり方について、地域や保護者、教育委員会が一体となって検討を進める。

2. これまでの実施状況

(1) 市全体の状況の説明について

「富山市自治振興連絡協議会正副会長会議」や「富山市PTA連絡協議会第3回評議会」、この後の「富山市自治振興連絡協議会総会」などで市全体の状況や小規模校における学校教育について、情報提供を進めました。

日 付	項 目
平成29年10月23日	富山市総合教育会議（市長、教育委員による）
平成30年11月27日	富山市総合教育会議（市長、教育委員による）
平成31年 1月29日	富山市自治振興連絡協議会正副会長会議
平成31年 2月24日	富山市PTA連絡協議会第3回評議会
令和元年 5月11日	富山市PTA連絡協議会定期総会
令和元年 5月29日	富山市自治振興連絡協議会総会
令和元年 8月 5日	「広報とやま」8月5日号特集面にて市全体の児童生徒が減少していく現状を掲載

(2) 地域の状況の説明について

小・中学校の現状をさらに、身近な課題と捉えていただくため、令和元年夏以降、13ブロック毎に開かれる会議などの場で、地域の児童生徒数や小・中学校の状況について、地区の自治振興連絡協議会及びPTAの代表の皆様にお伝えし、ご意見をお聞きし、団体ごとのアンケートの提出を依頼しました。

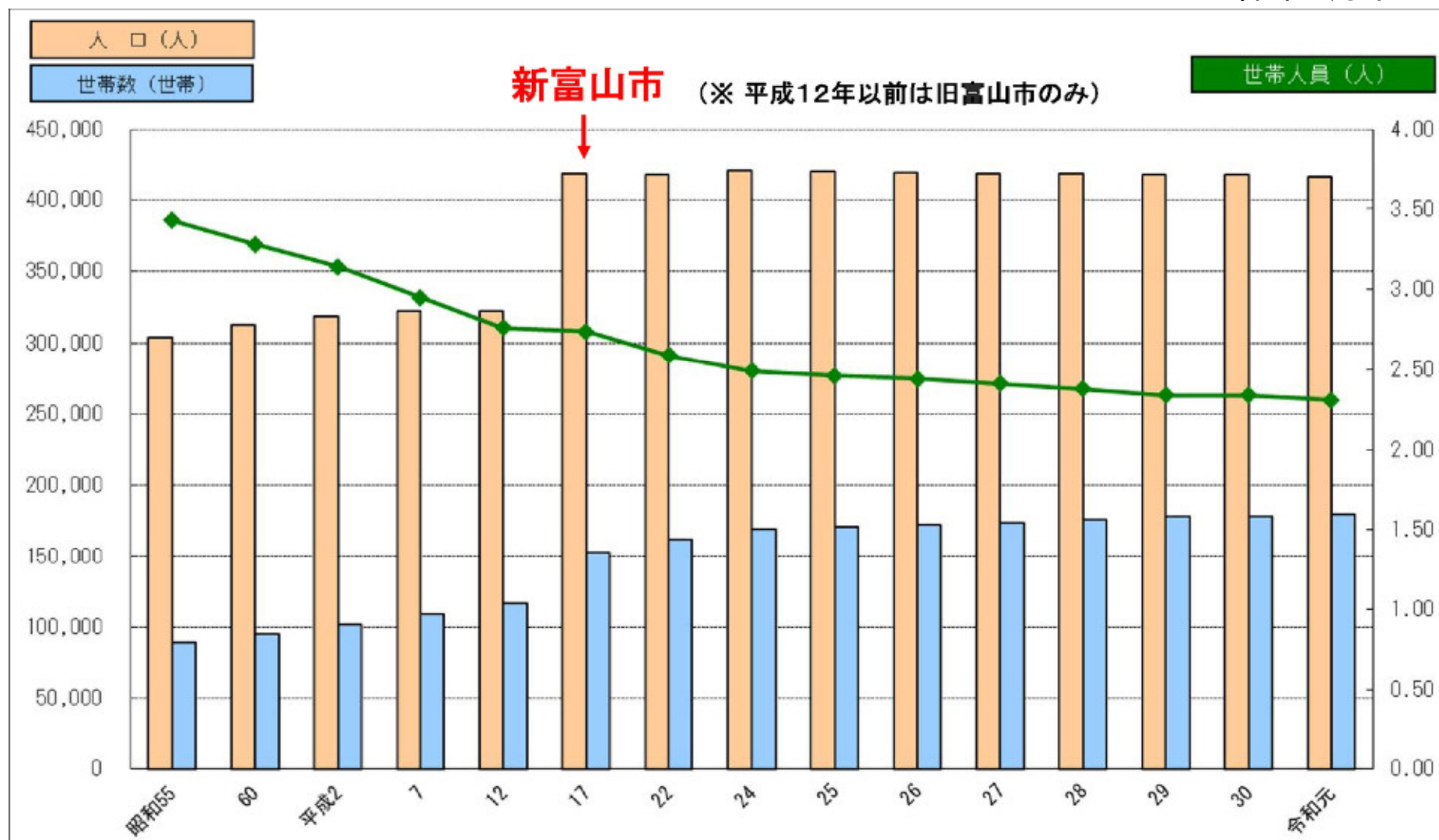
日付	地域	場所	参加人数
令和元年 7月23日	細入地域	細入公民館	15名
令和元年10月 1日	八尾地域	八尾健康福祉総合センター	45名
令和元年10月 7日	大山地域	上滝公民館	14名
令和元年10月23日	山田地域	山田公民館	11名
令和元年11月12日	婦中地域	婦中行政サービスセンター	15名
令和元年11月16日	呉羽地域	呉羽ハイツ	86名
令和元年11月19日	北部地域	とやま自遊館	14名
令和元年11月20日	水橋地域	上条公民館	13名
令和元年11月27日	大沢野地域	大沢野行政サービスセンター	9名
令和元年12月16日	中央地域	富山市役所	12名
令和2年 1月 9日	南部地域	堀川南公民館	17名
令和2年 1月28日	西部地域	倉垣公民館	17名
令和2年 1月29日	東部地域	山室公民館	18名

富山市全体の状況

資料2

(1) 人口の推移

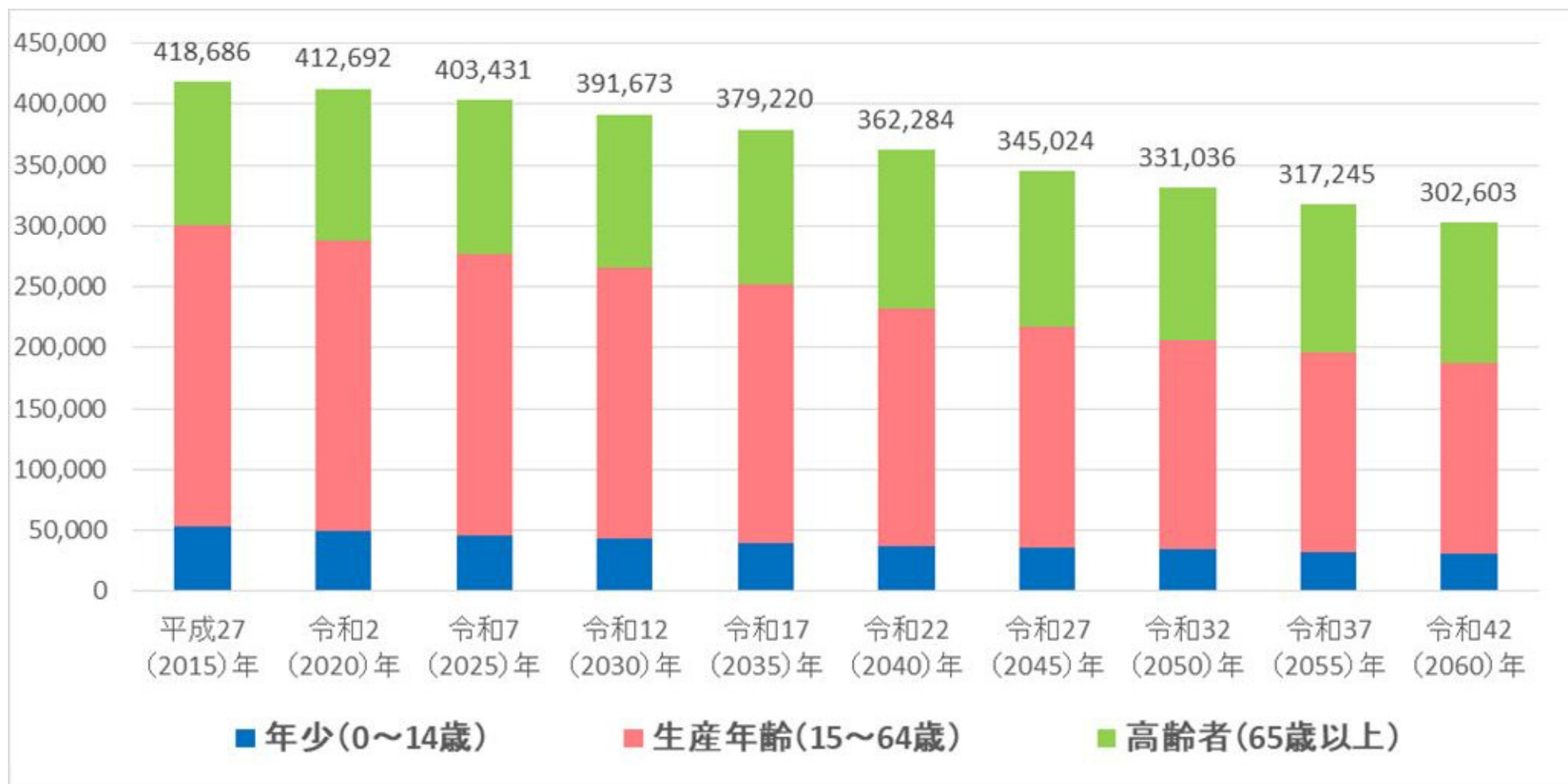
※ 各年9月末



富山市全体の状況

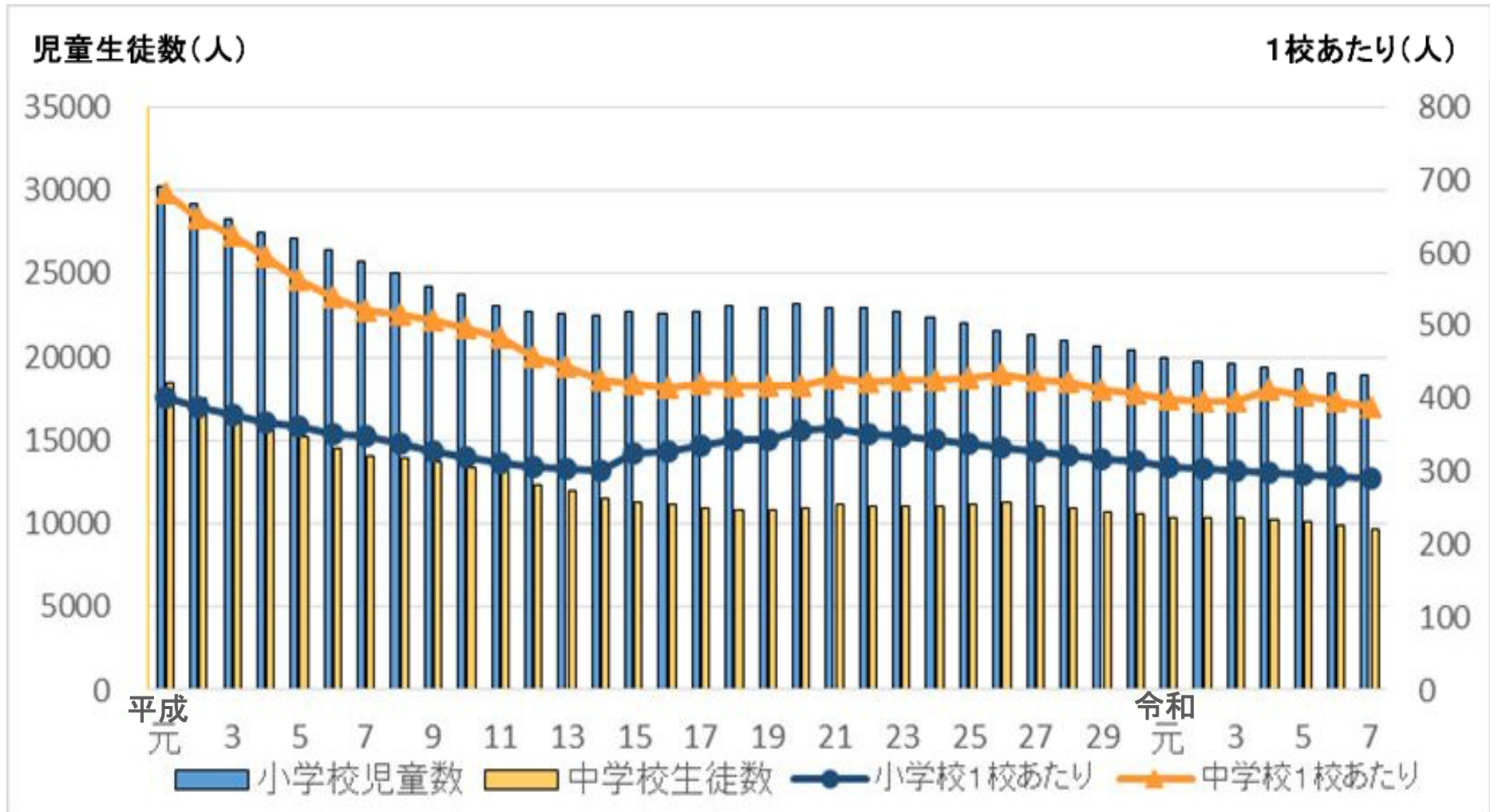
(2) 人口の推移

人口(人)



富山市全体の状況

(3) 市立小・中学校の児童生徒数の推移



富山市全体の状況

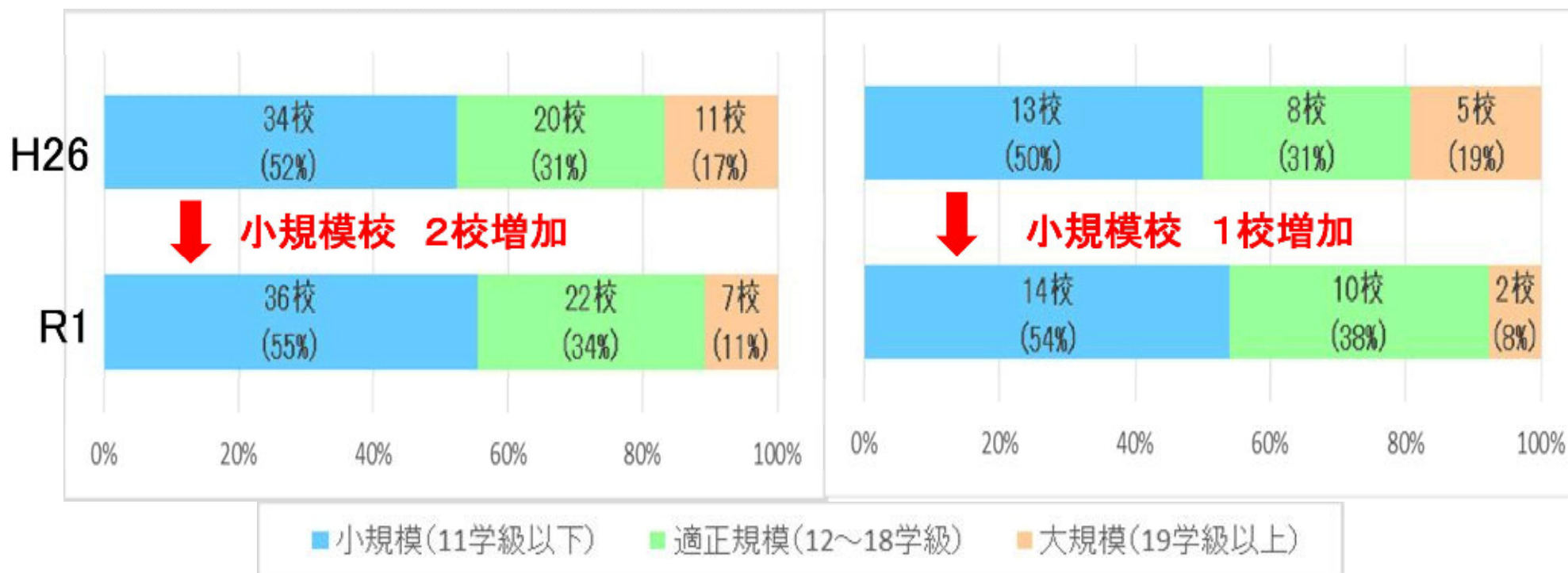
(4) 市立小・中学校の学校規模

標準（適正規模）：1校あたり12～18学級

（※学校教育法施行規則）

小学校

中学校

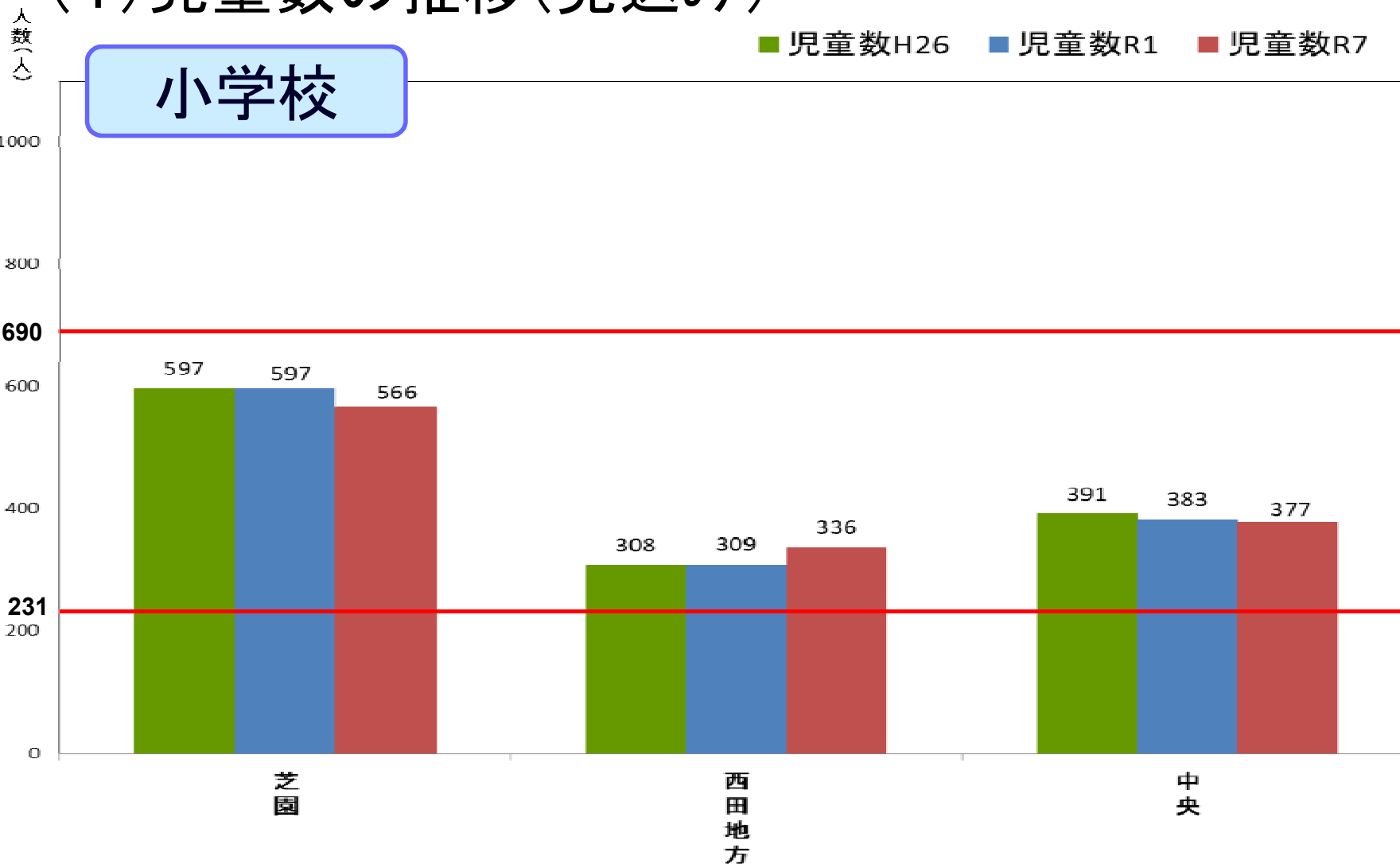


市立小・中学校の5割以上が小規模校

中央地域の状況

※令和7年は、子どもたちが、現在の住所地が通学区域となる小・中学校に入学するものとして見込んだ人数(学校選択制等は考慮しないもの)

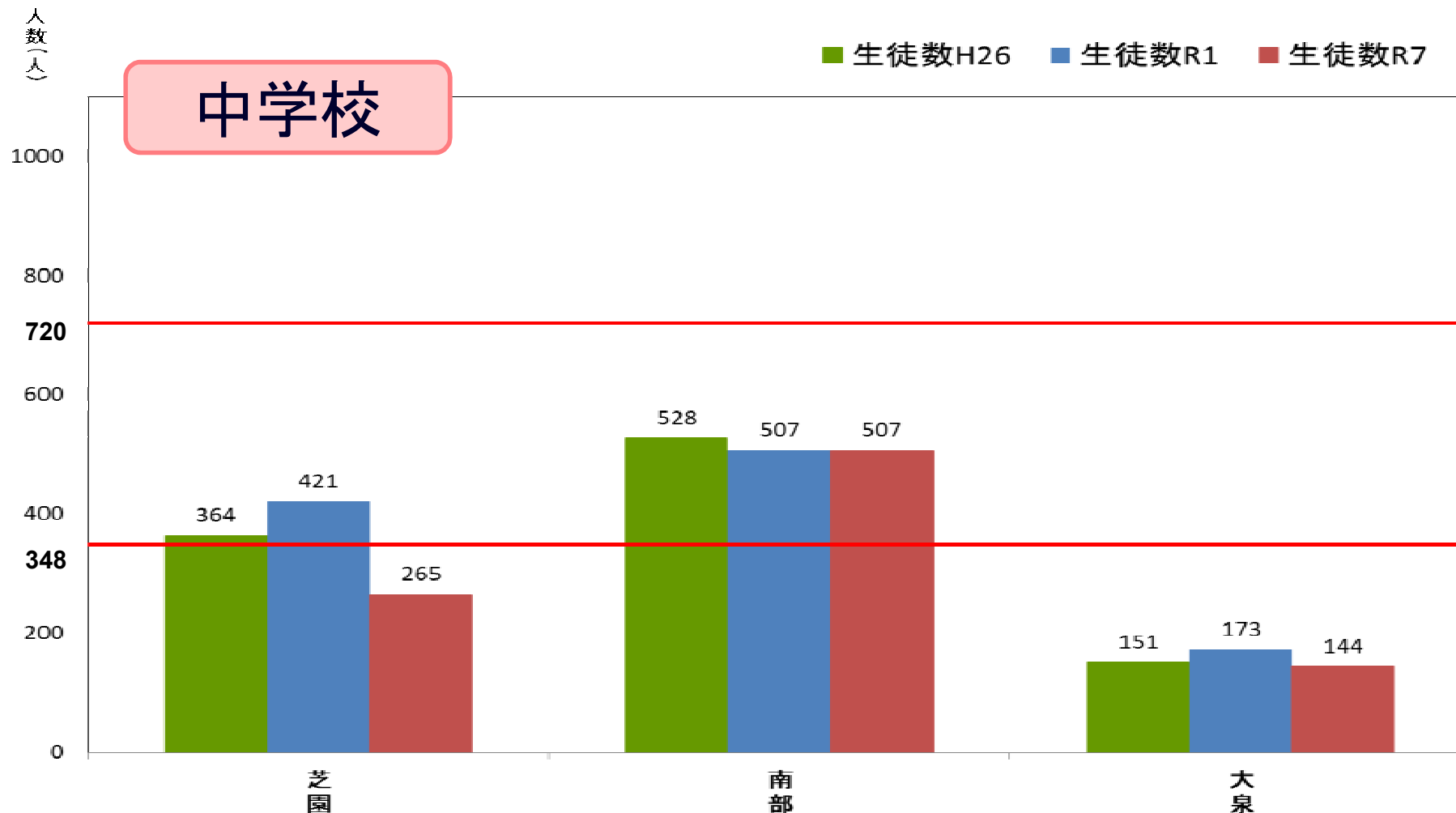
(1) 児童数の推移(見込み)



中央地域の状況

(2) 生徒数の推移(見込み)

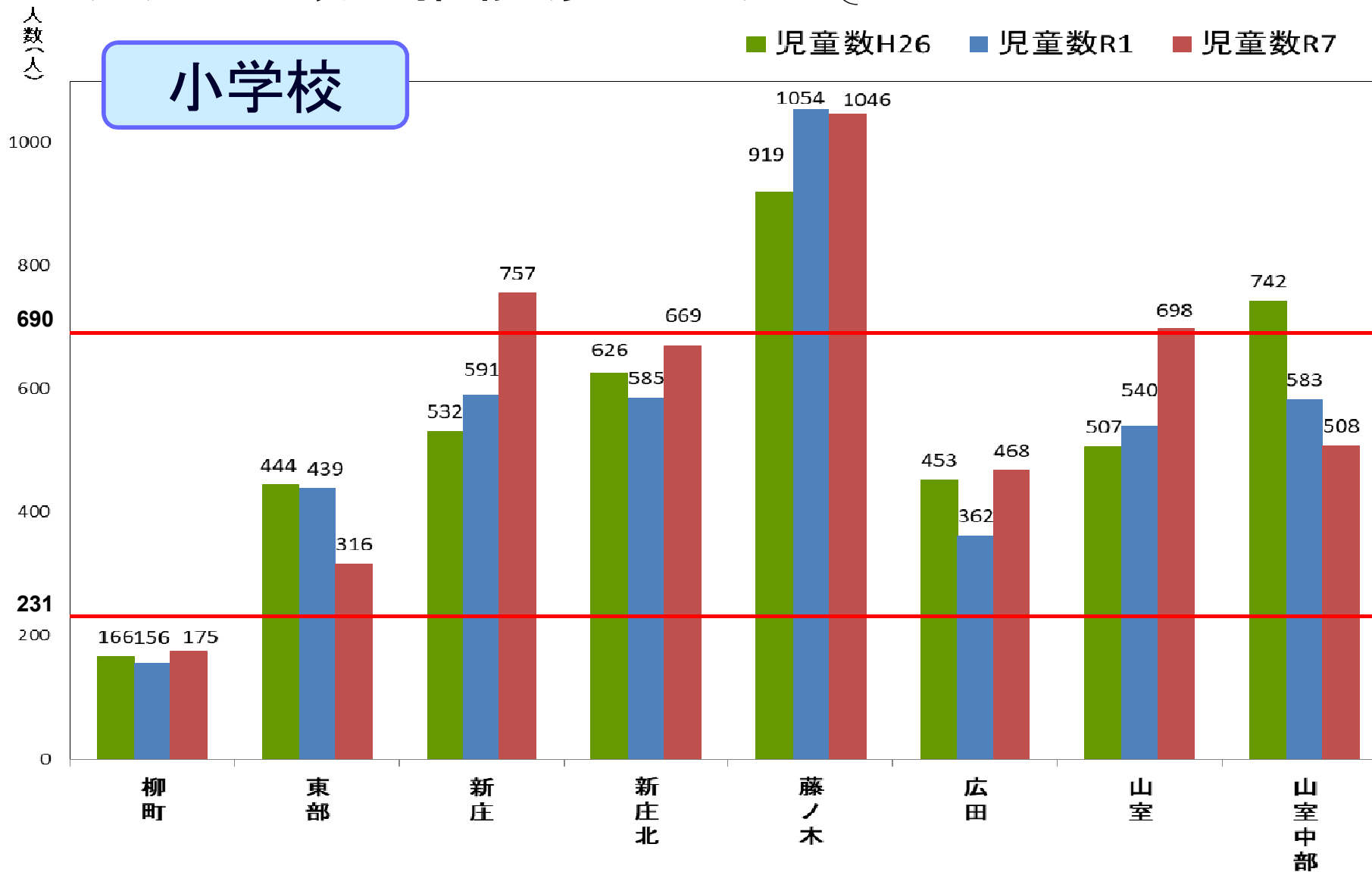
※令和7年は、子どもたちが、現在の住所地が通学区域となる小・中学校に入学するものとして見込んだ人数(学校選択制等は考慮しないもの)



東部地域の状況

(1) 児童数の推移(見込み)

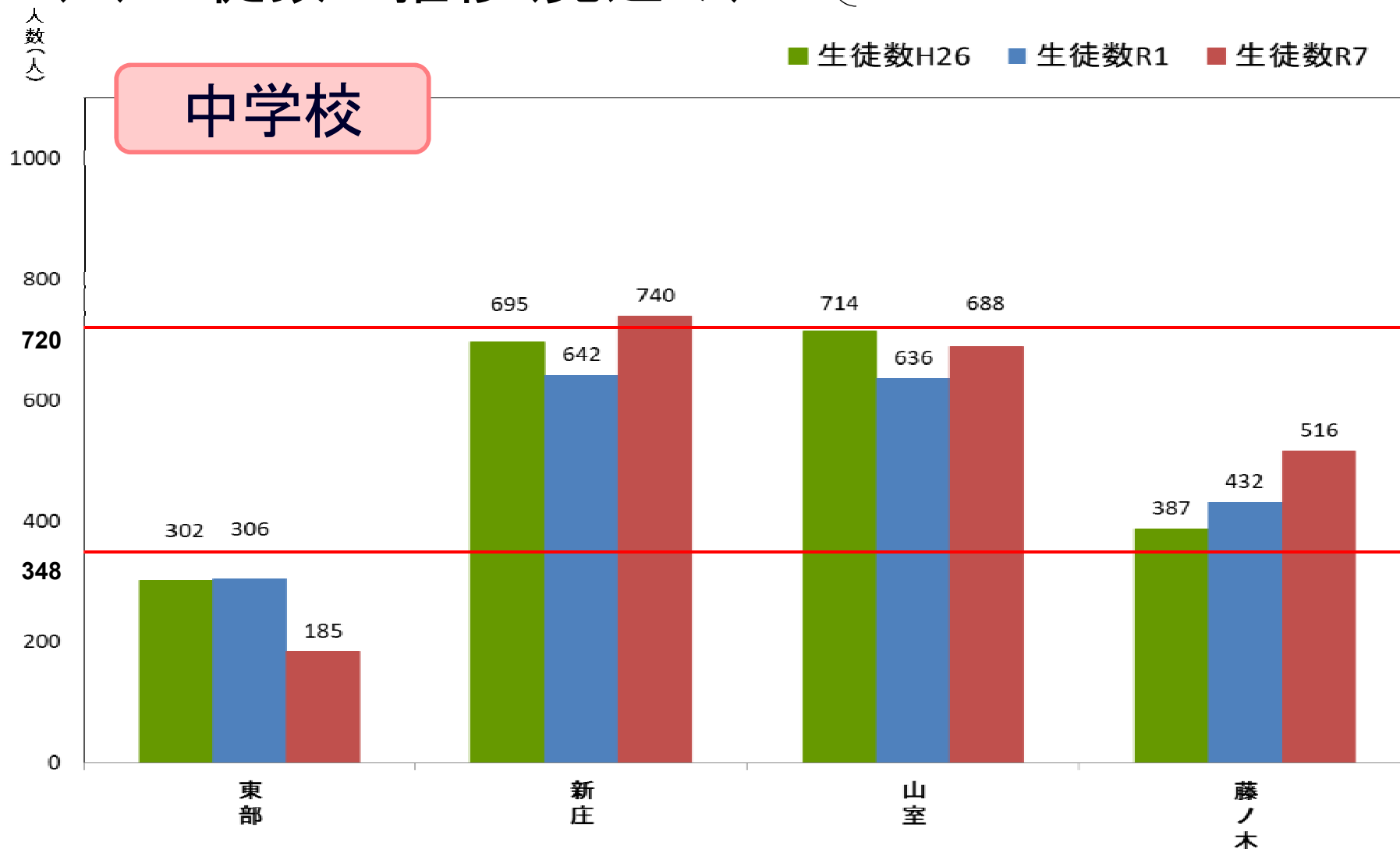
※令和7年は、子どもたちが、現在の住所地が通学区域となる小・中学校に入学するものとして見込んだ人数(学校選択制等は考慮しないもの)



東部地域の状況

(2) 生徒数の推移(見込み)

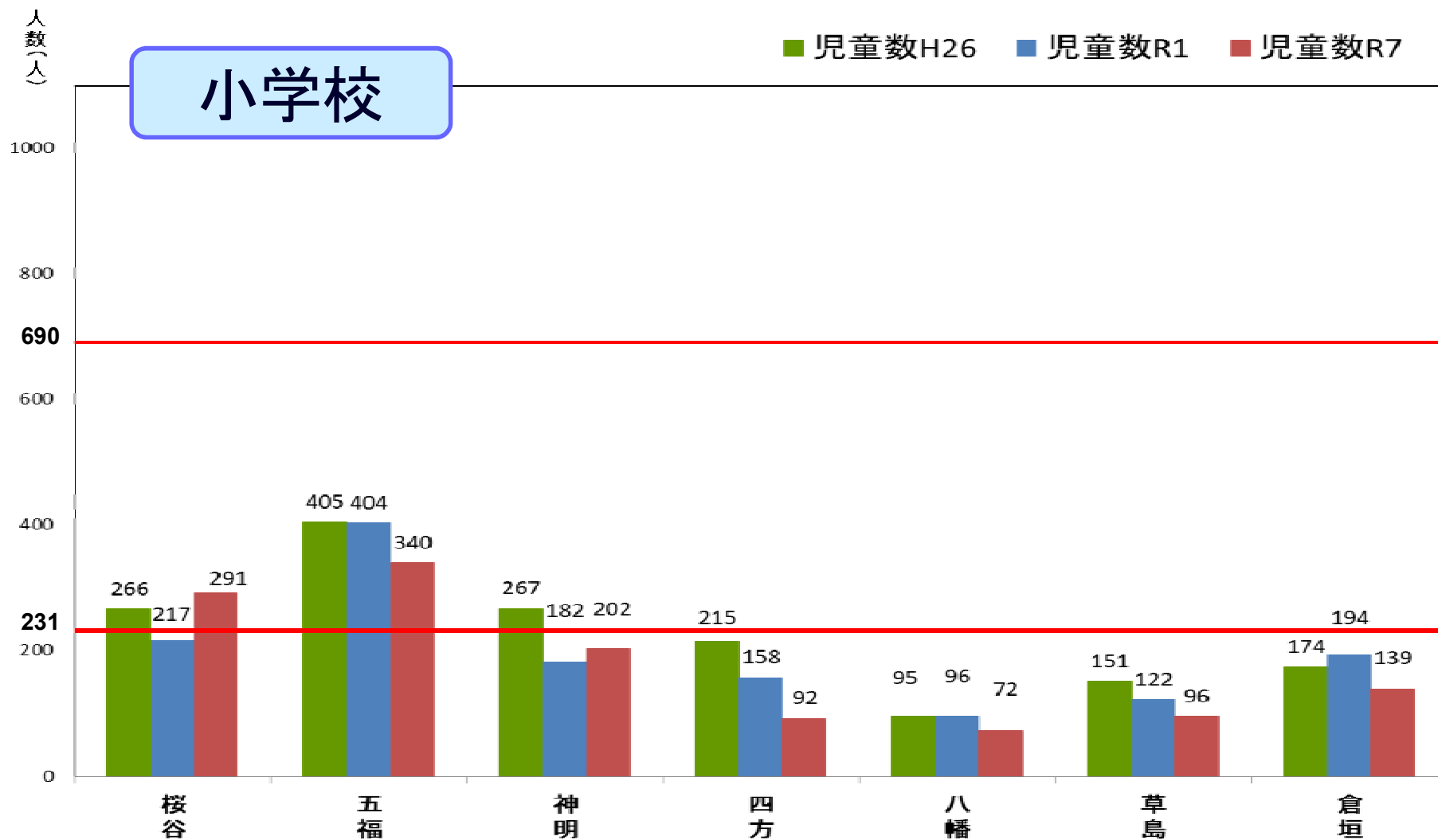
※令和7年は、子どもたちが、現在の住所地が通学区域となる小・中学校に入学するものとして見込んだ人数(学校選択制等は考慮しないもの)



西部地域の状況

(1) 児童数の推移(見込み)

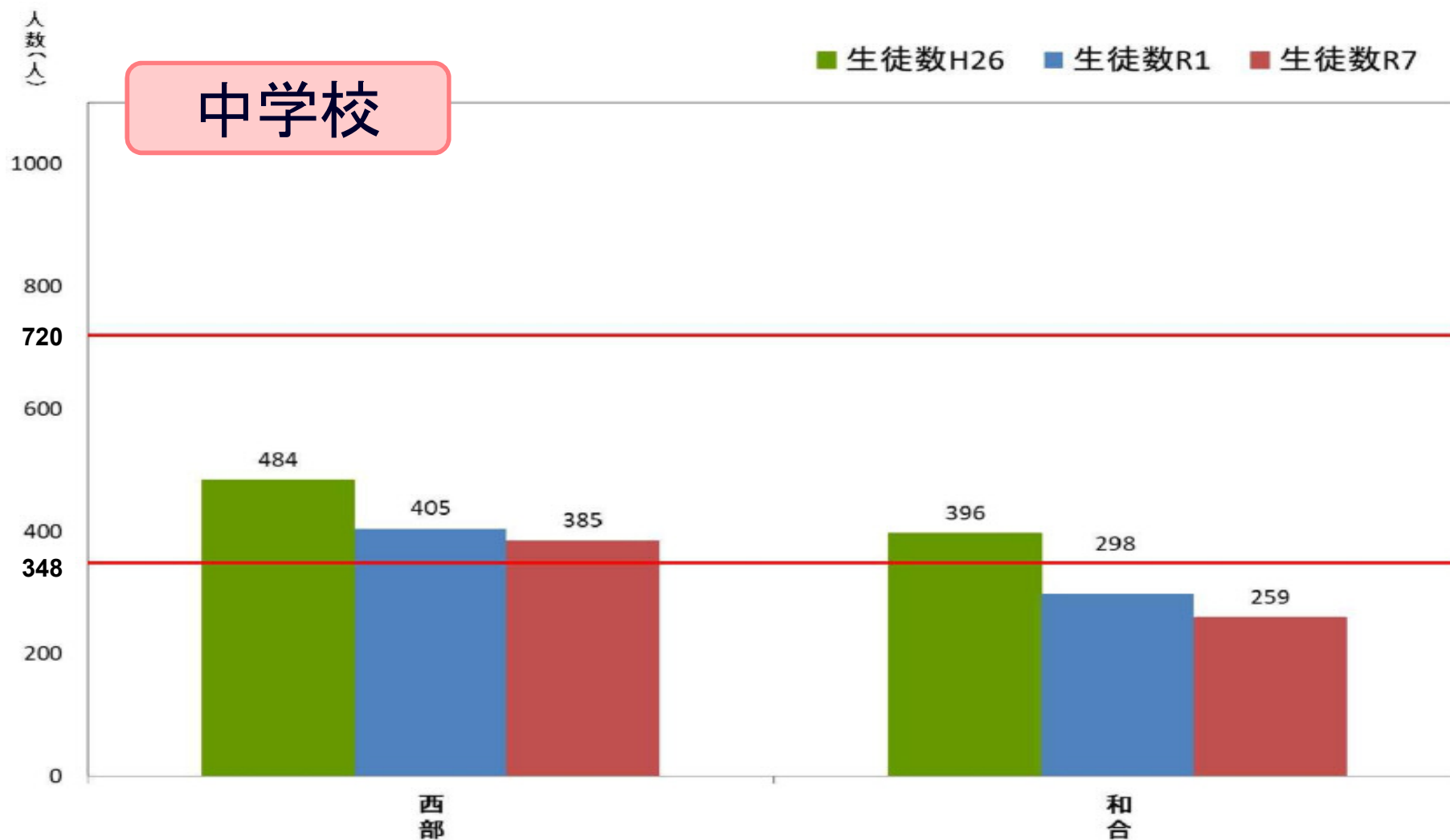
※令和7年は、子どもたちが、現在の住所地が通学区域となる小・中学校に入学するものとして見込んだ人数(学校選択制等は考慮しないもの)



西部地域の状況

(2) 生徒数の推移(見込み)

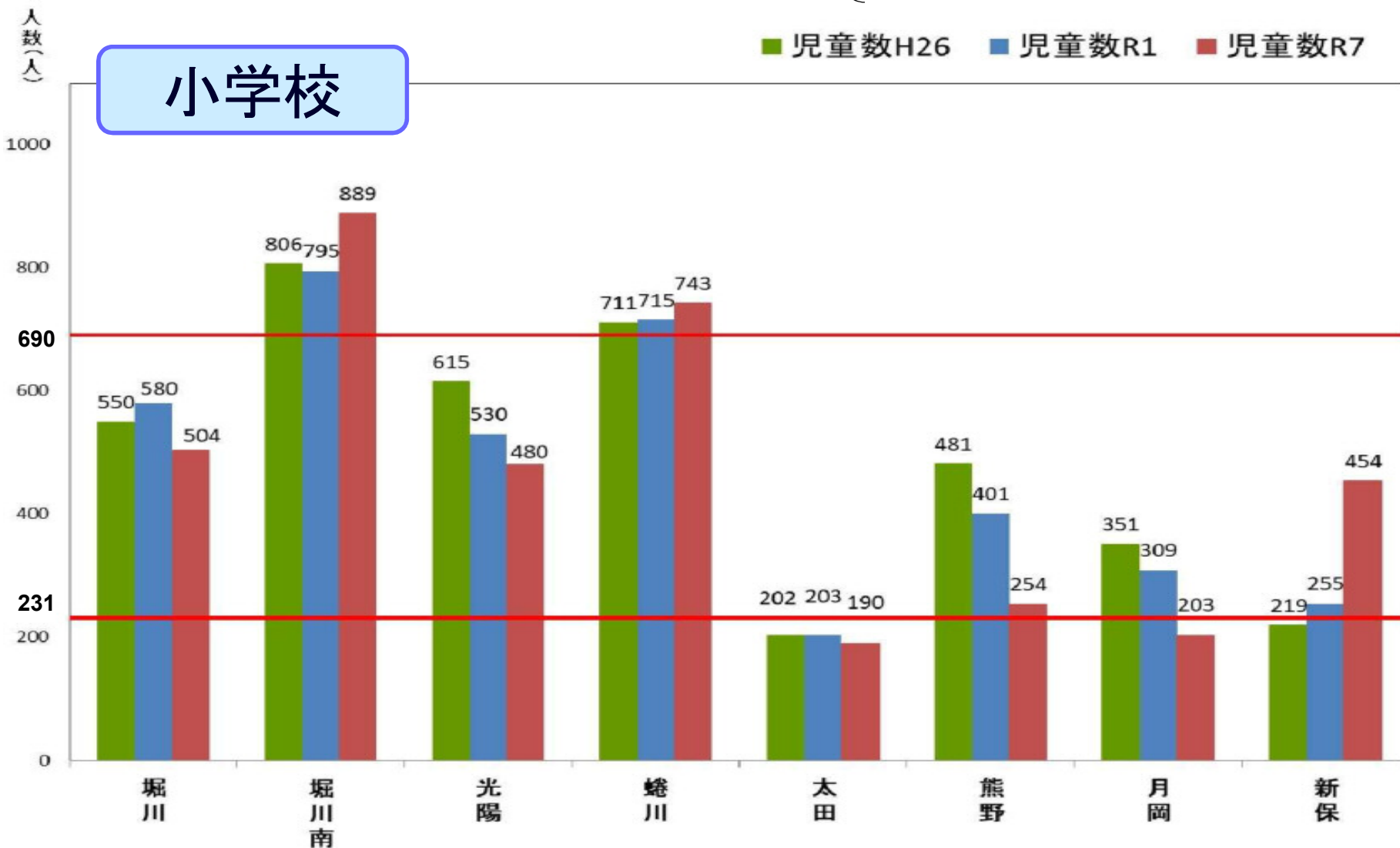
※令和7年は、子どもたちが、現在の住所地が通学区域となる小・中学校に入学するものとして見込んだ人数(学校選択制等は考慮しないもの)



南部地域の状況

(1) 児童数の推移(見込み)

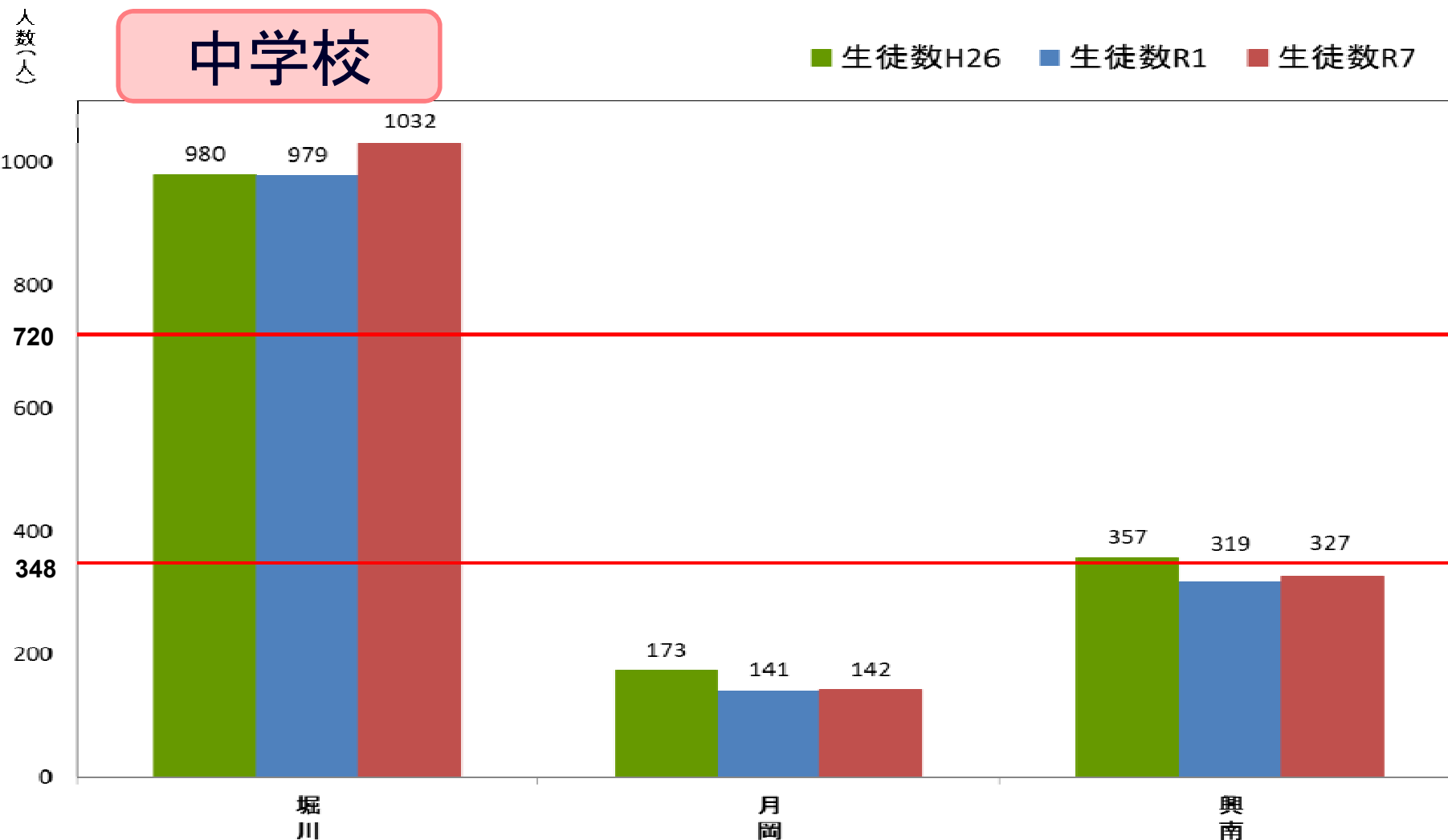
※令和7年は、子どもたちが、現在の住所地が通学区域となる小・中学校に入学するものとして見込んだ人数(学校選択制等は考慮しないもの)



南部地域の状況

(2) 生徒数の推移(見込み)

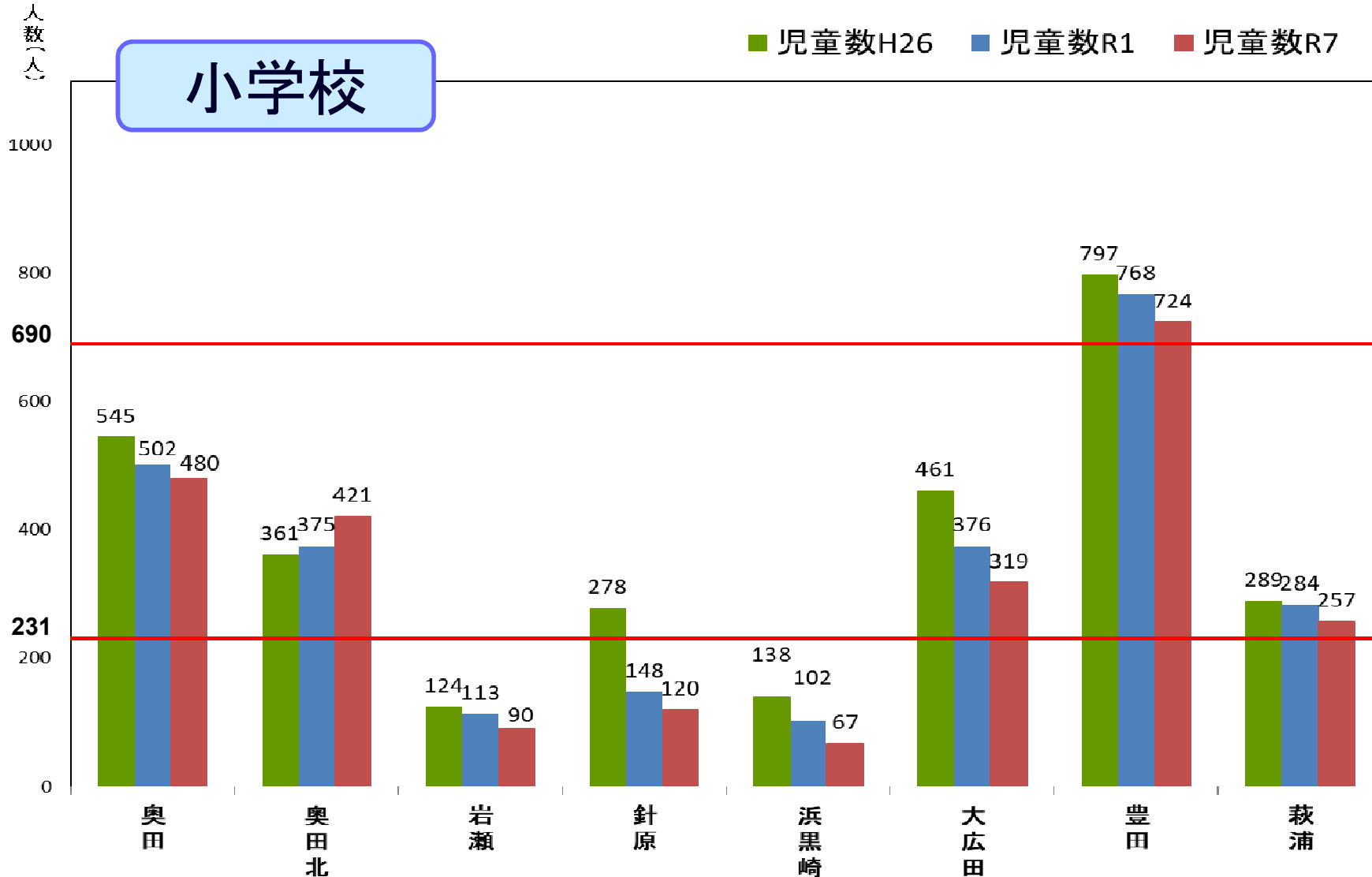
※令和7年は、子どもたちが、現在の住所地が通学区域となる小・中学校に入学するものとして見込んだ人数(学校選択制等は考慮しないもの)



北部地域の状況

(1) 児童数の推移(見込み)

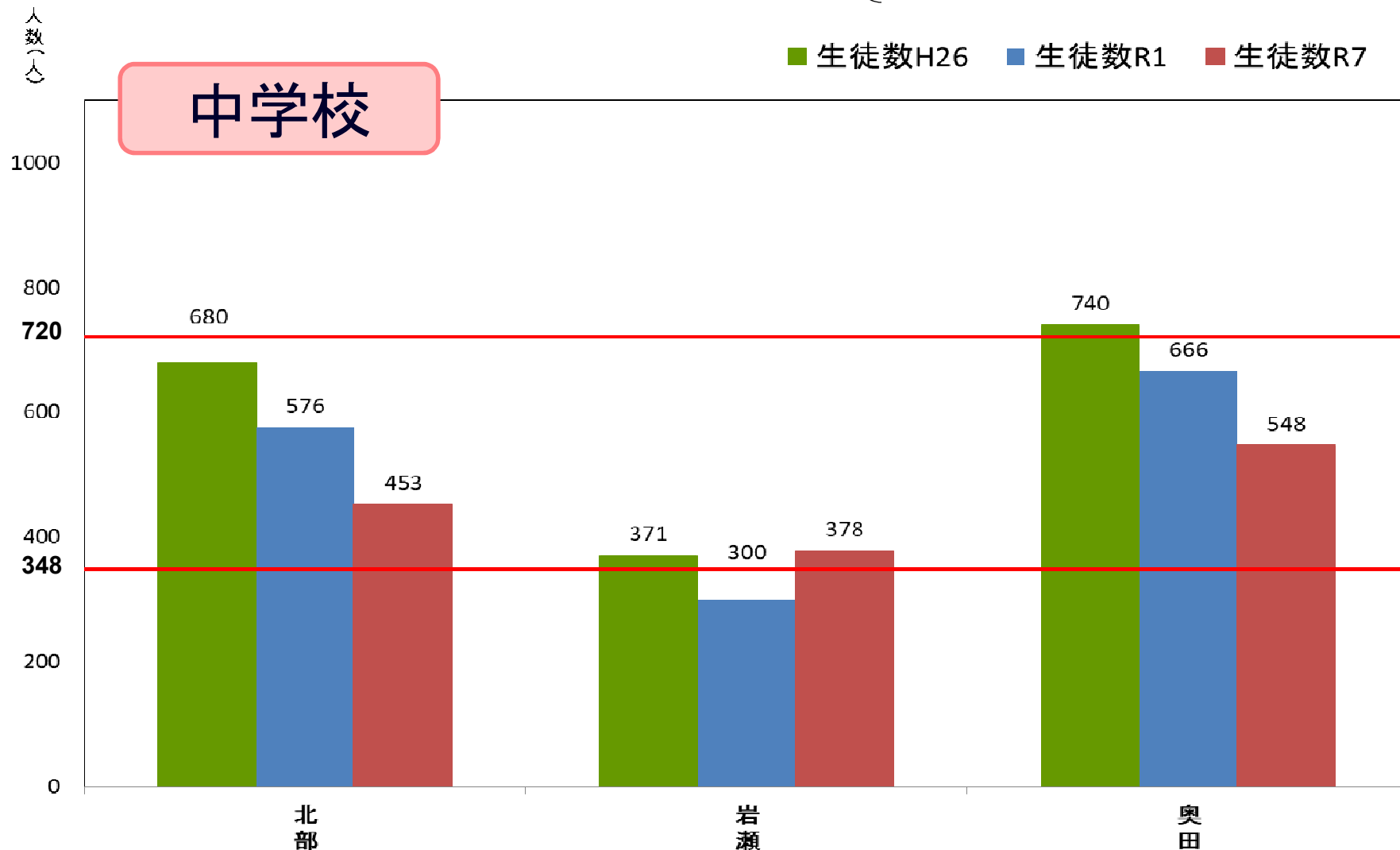
※令和7年は、子どもたちが、現在の住所地が通学区域となる小・中学校に入学するものとして見込んだ人数(学校選択制等は考慮しないもの)



北部地域の状況

(2) 生徒数の推移(見込み)

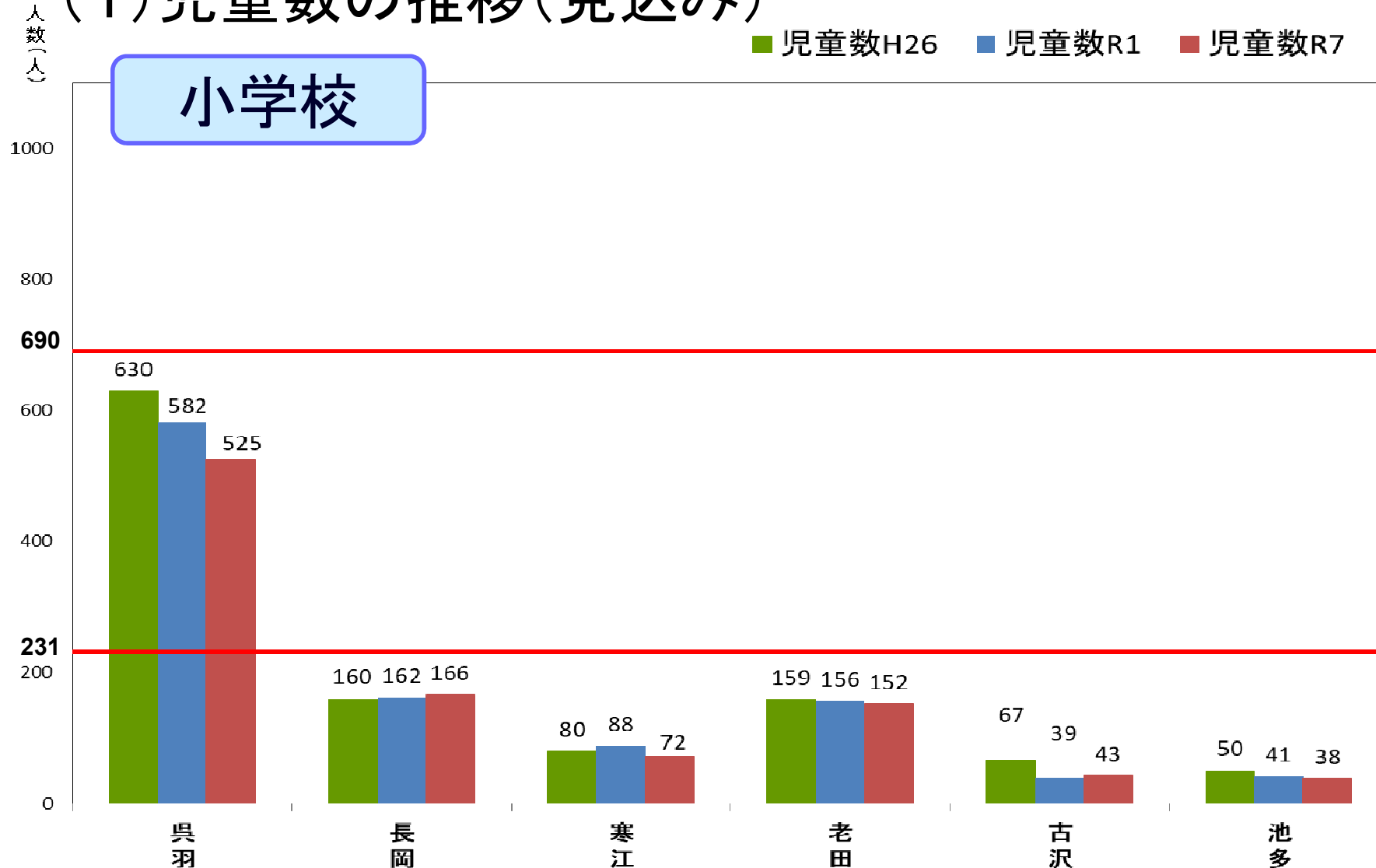
※令和7年は、子どもたちが、現在の住所地が通学区域となる小・中学校に入学するものとして見込んだ人数(学校選択制等は考慮しないもの)



呉羽地域の状況

※令和7年は、子どもたちが、現在の住所地が通学区域となる小・中学校に入学するものとして見込んだ人数(学校選択制等は考慮しないもの)

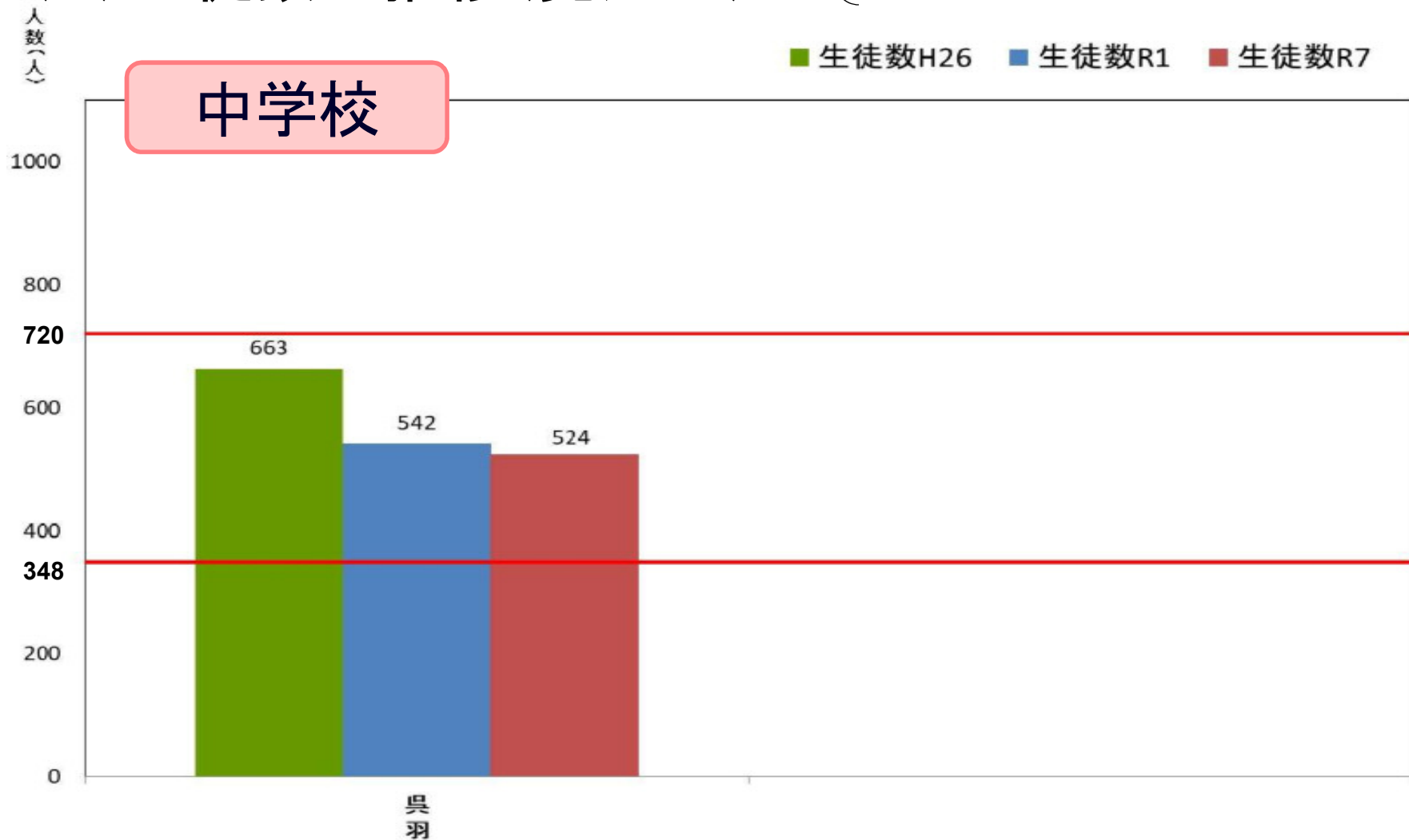
(1) 児童数の推移(見込み)



呉羽地域の状況

(2) 生徒数の推移(見込み)

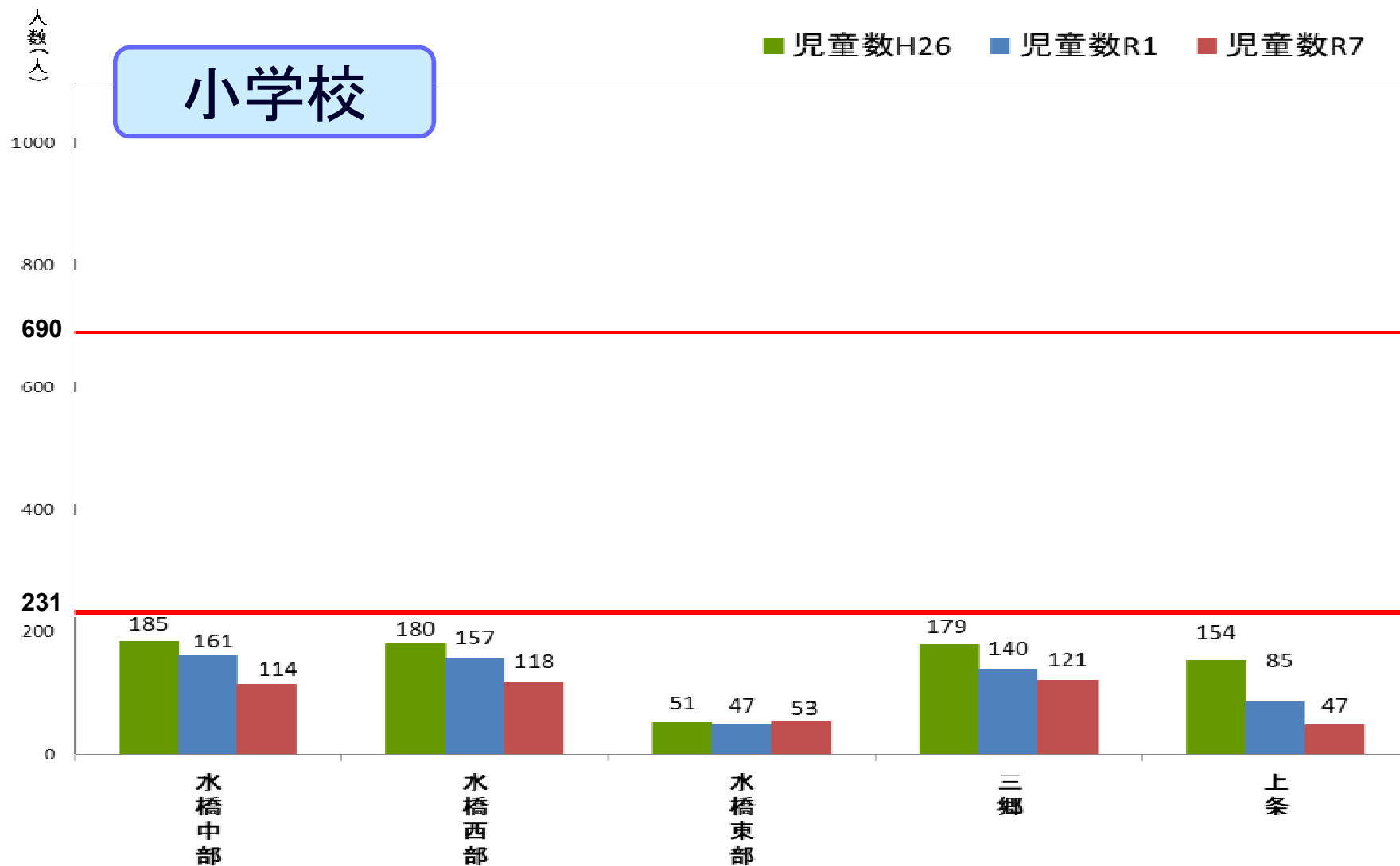
※令和7年は、子どもたちが、現在の住所地が通学区域となる小・中学校に入学するものとして見込んだ人数(学校選択制等は考慮しないもの)



水橋地域の状況

(1) 児童数の推移(見込み)

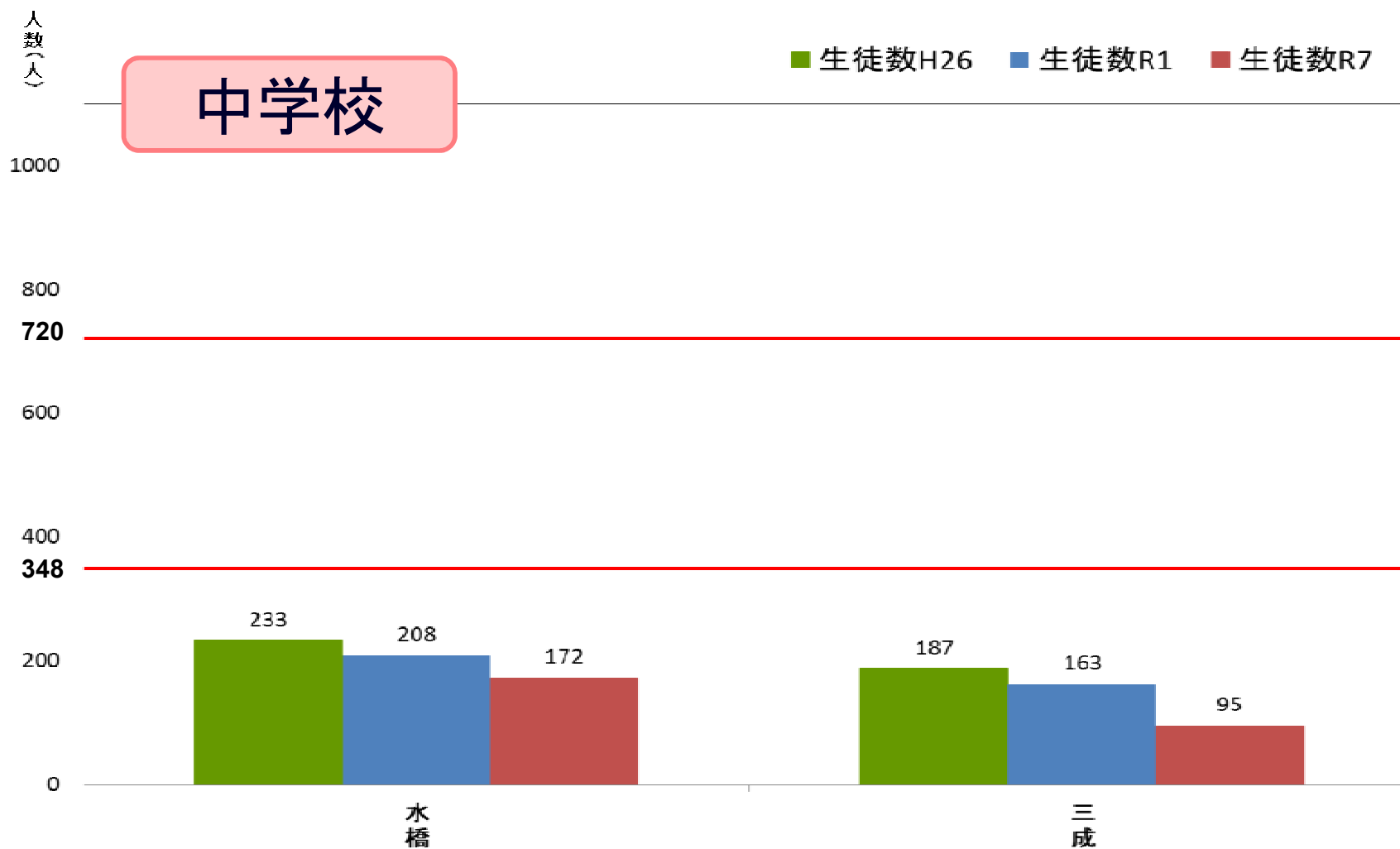
※令和7年は、子どもたちが、現在の住所地が通学区域となる小・中学校に入学するものとして見込んだ人数(学校選択制等は考慮しないもの)



水橋地域の状況

(2) 生徒数の推移(見込み)

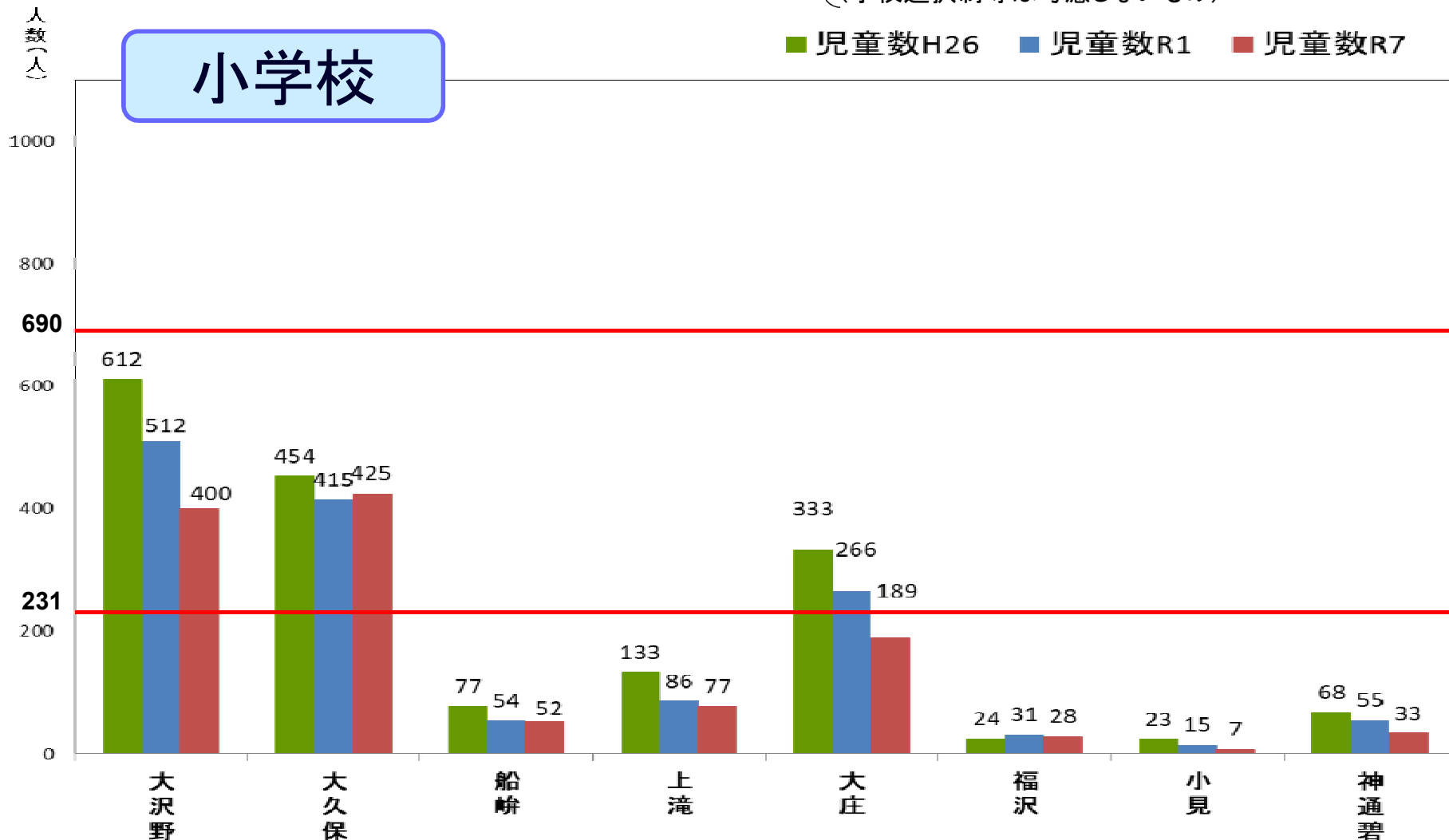
※令和7年は、子どもたちが、現在の住所地が通学区域となる小・中学校に入学するものとして見込んだ人数(学校選択制等は考慮しないもの)



大沢野地域・大山地域・細入地域の状況

(1) 児童数の推移(見込み)

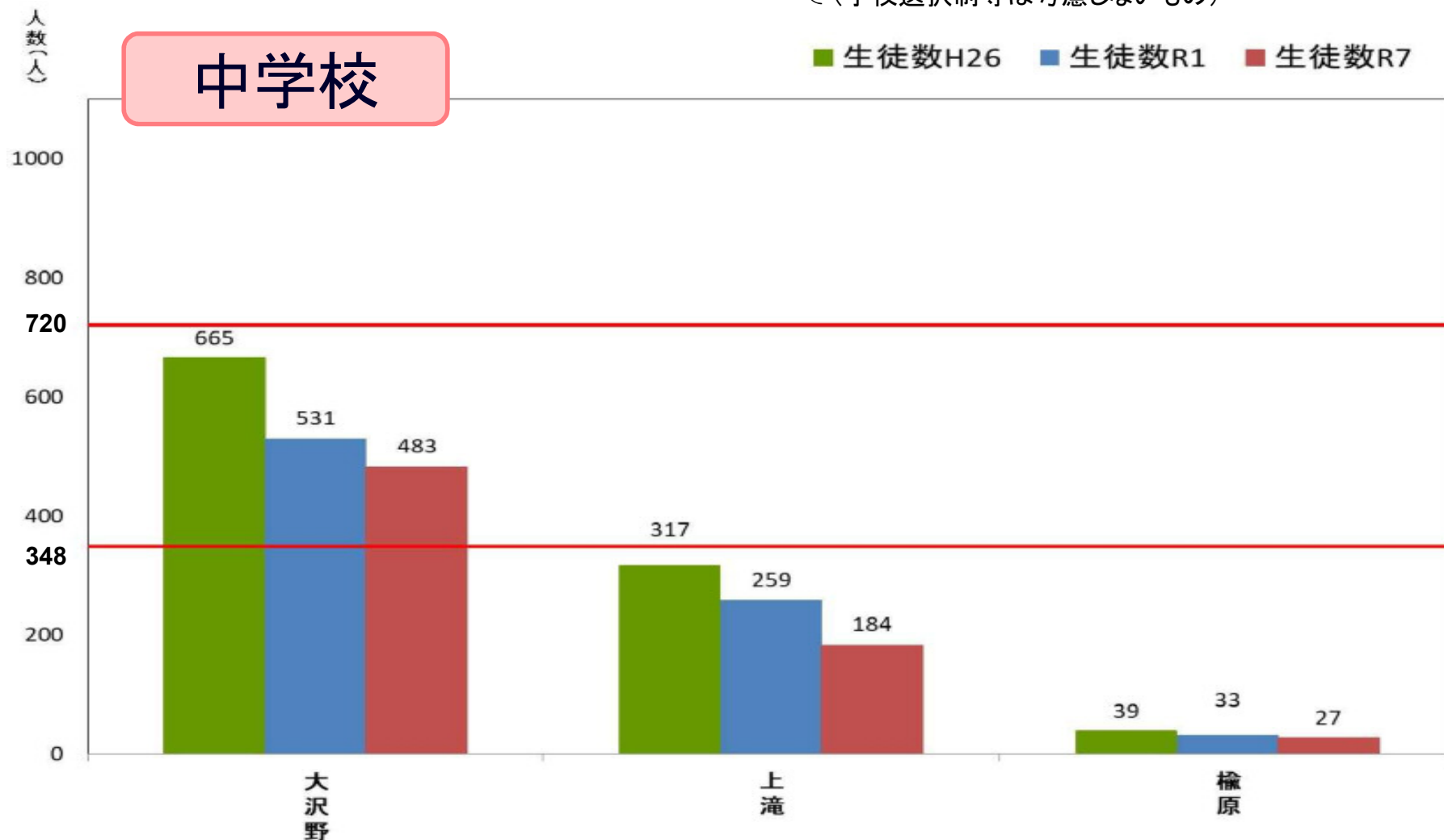
※令和7年は、子どもたちが、現在の住所地が通学区域となる小・中学校に入学するものとして見込んだ人数
(学校選択制等は考慮しないもの)



大沢野地域・大山地域・細入地域の状況

(2) 生徒数の推移(見込み)

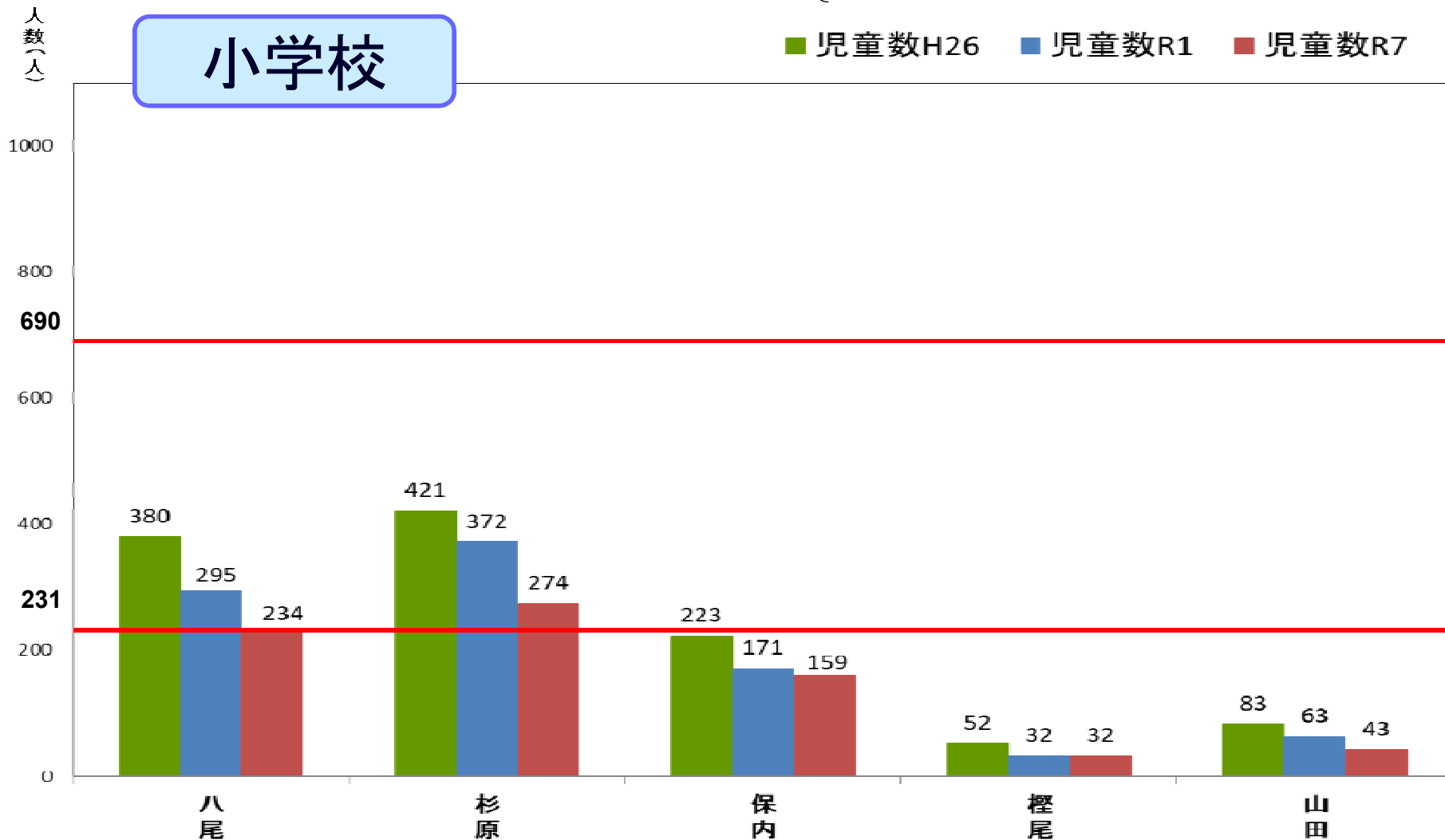
※令和7年は、子どもたちが、現在の住所地が通学区域となる小・中学校に入学するものとして見込んだ人数
(学校選択制等は考慮しないもの)



八尾地域・山田地域の状況

(1) 児童数の推移(見込み)

※令和7年は、子どもたちが、現在の住所地が通学区域となる小・中学校に入学するものとして見込んだ人数
(学校選択制等は考慮しないもの)

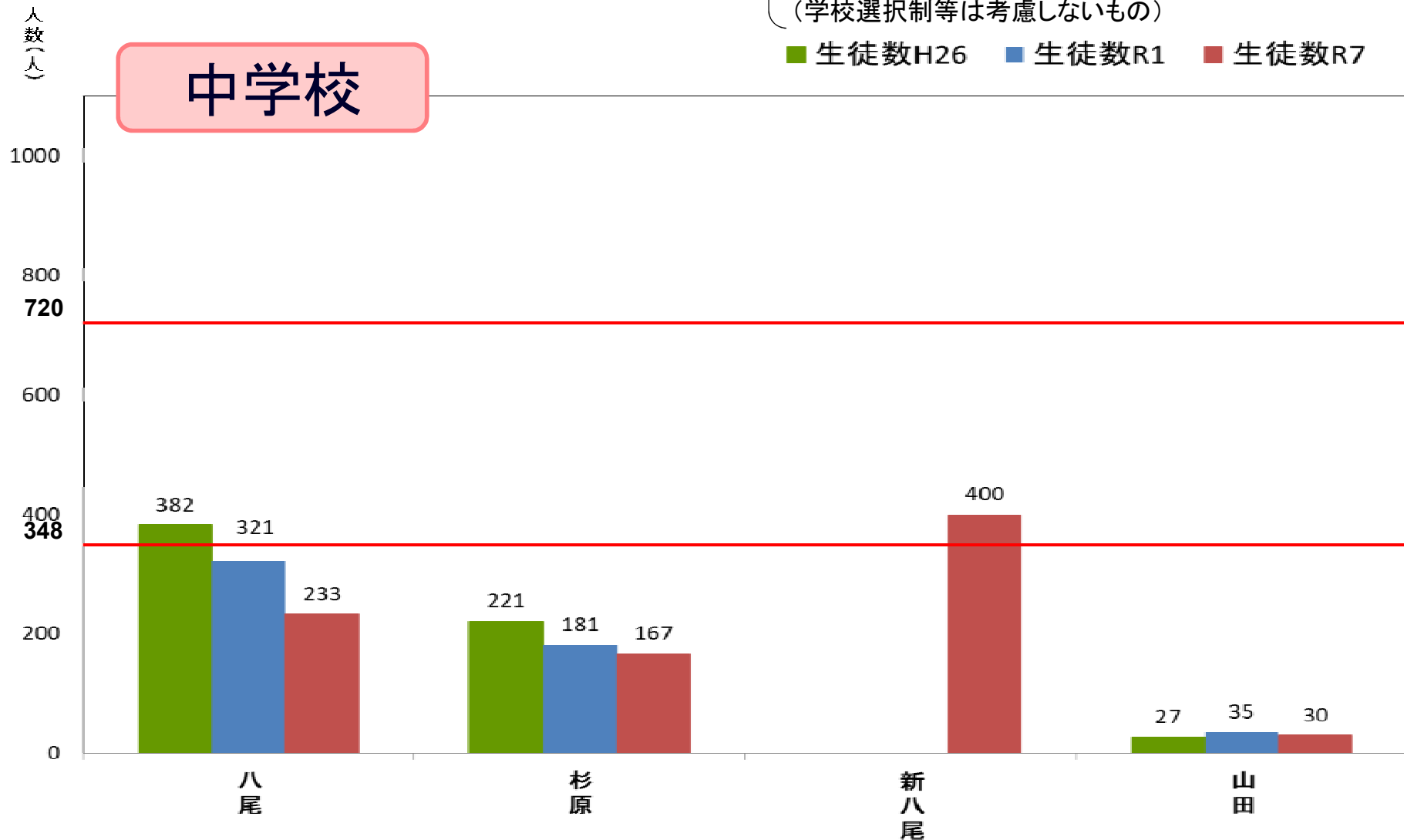


八尾地域・山田地域の状況

(2) 生徒数の推移(見込み)

※令和7年は、子どもたちが、現在の住所地が通学区域となる小・中学校に入学するものとして見込んだ人数
(学校選択制等は考慮しないもの)

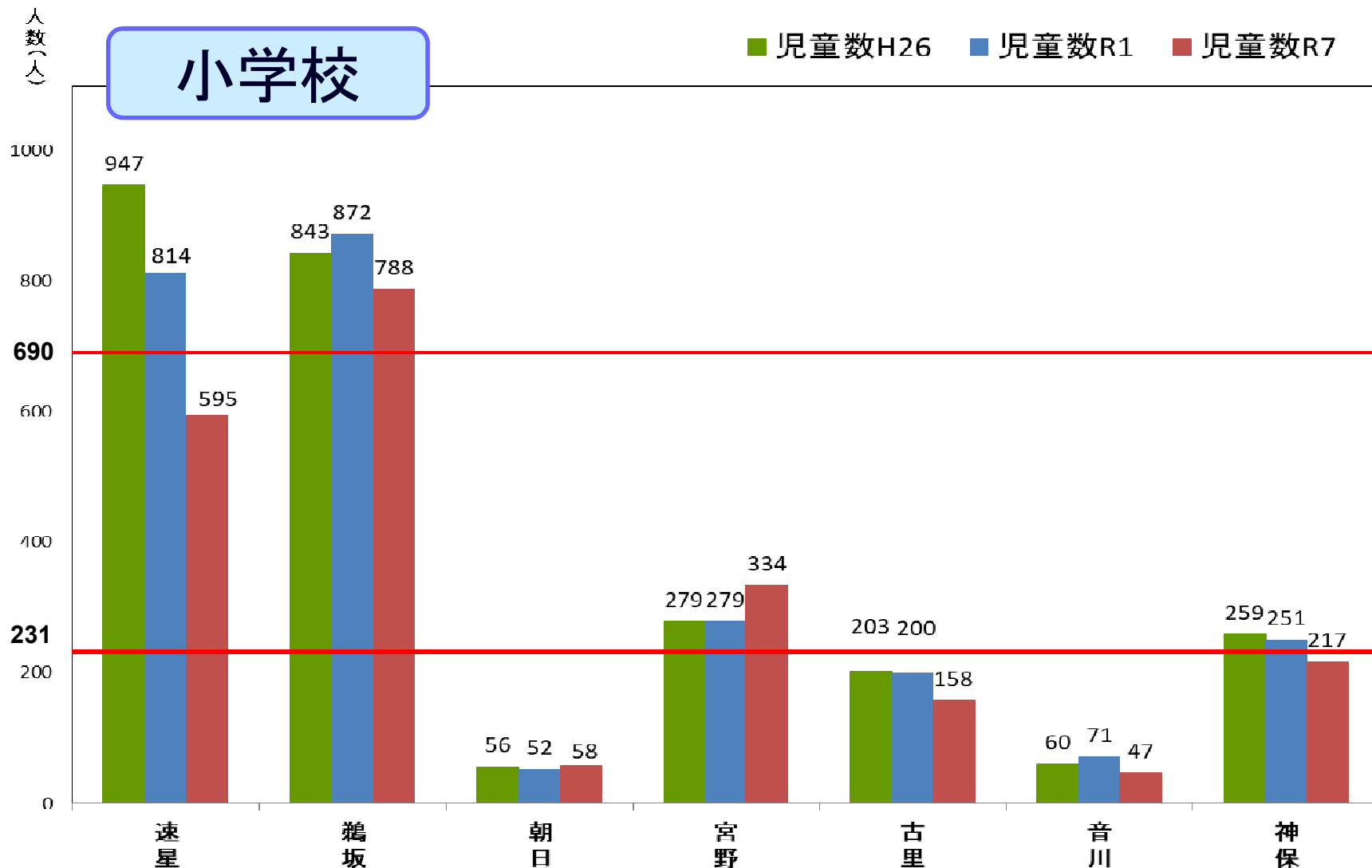
■ 生徒数H26 ■ 生徒数R1 ■ 生徒数R7



婦中地域の状況

(1) 児童数の推移(見込み)

※令和7年は、子どもたちが、現在の住所地が通学区域となる小・中学校に入学するものとして見込んだ人数(学校選択制等は考慮しないもの)



婦中地域の状況

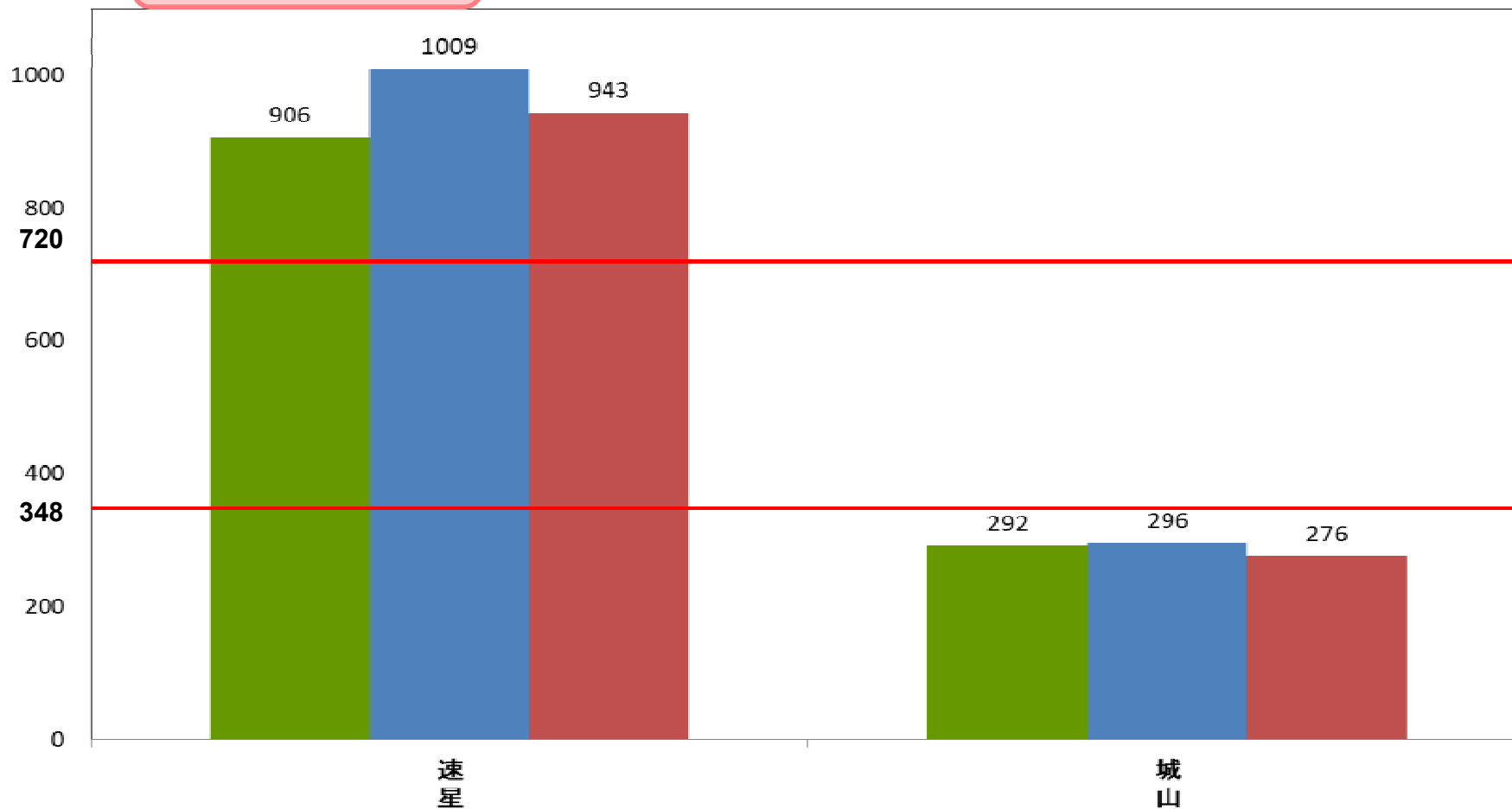
(2) 生徒数の推移(見込み)

※令和7年は、子どもたちが、現在の住所地が通学区域となる小・中学校に入学するものとして見込んだ人数(学校選択制等は考慮しないもの)

人数(人)

中学校

■ 生徒数H26 ■ 生徒数R1 ■ 生徒数R7



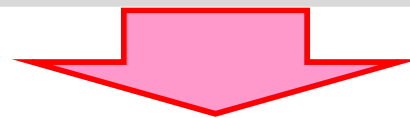
アンケートまとめ

資料3

「小・中学校の将来のあり方」検討の説明、意見交換会実施時にアンケートを配付
対象:各自治振興会、小・中学校PTA

＜質問項目＞

1. 地元の小・中学校の規模について適正だと思いますか。
また、その理由。
2. 地元の小・中学校において、課題と思われること、
その対応として、必要と思われること。
3. 今後あらためて個々の小・中学校単位で説明会や意見交換の場が
必要だと思いますか。議論、質問したい事項について、参考に記載
してください
4. その他、本市の教育に関するご意見等がありましたら自由に
記入してください。

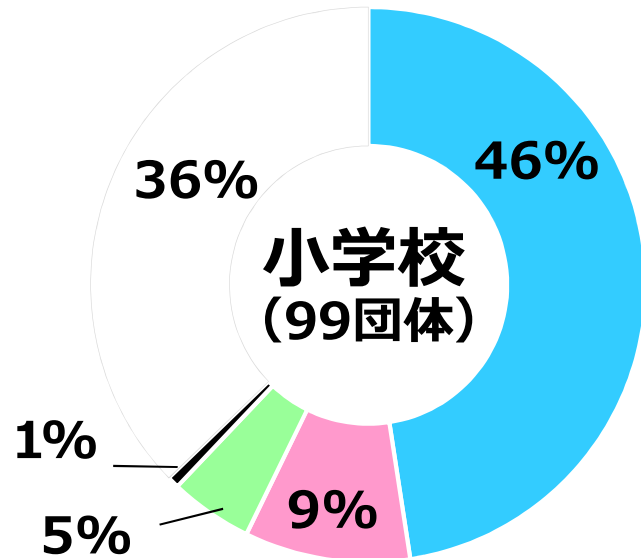


回収率は**69%**（自治振興会：84%、PTA：54%）

※1月末現在 開催時期が遅い南部、西部、東部地域を除く

アンケートまとめ

質問1. 地元の小・中学校の規模について適正だと思いますか。また、その理由。

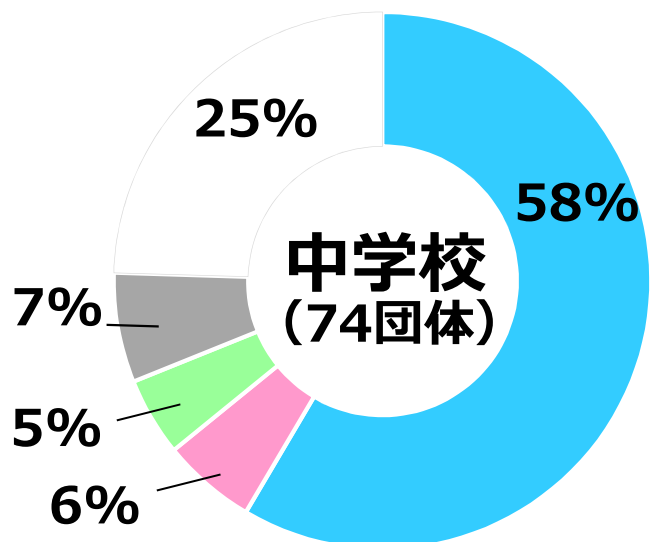


<はい>…46%

- 丁度よい
- 先生が目が行き届く
- 子ども同士、親同士のつながりが良い

<いいえ>…9%

- クラス替えがない
- 人にもまれない
- 少人数、複式にデメリットあり



<はい>…58%

- 自分とは違った意見を聞くことができる
- 競争力が向上する

<いいえ>…6%

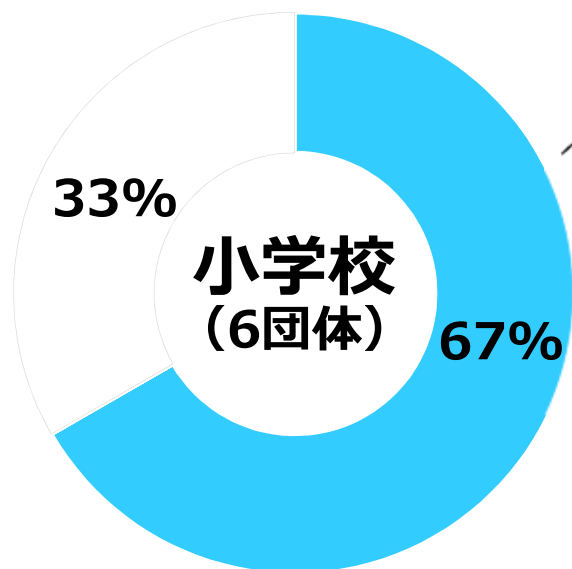
- 教科別の教員が揃わない
- 希望する部活動ができない

■ はい ■ いいえ ■ どちらとも言えない
■ 未記入 □ 未回収

アンケートまとめ

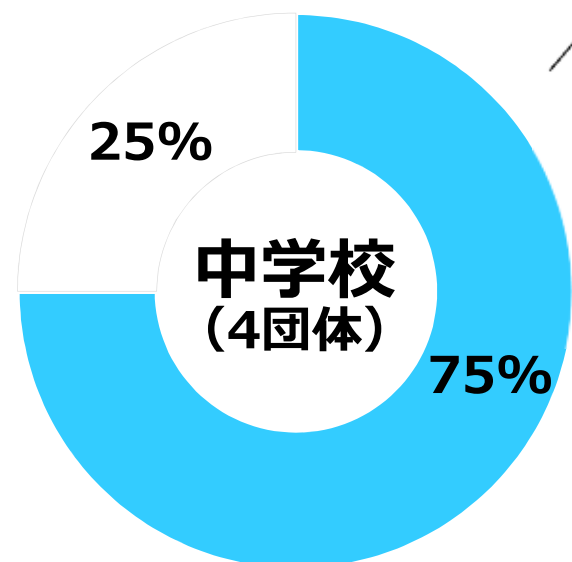
質問1で、今年度、「**大規模**」の学校がある地域の回答の内訳

※ 標準(適正規模): 1校あたり 12~18学級(※学校教育法施行規則)より
大規模は、1校あたり 19学級以上と考えた場合



＜適正である＞…67%

- 約1,500人いた頃と比べて(現在約1,000人で)多いとは思わない(自治振興会)
- 活気があって良い(自治振興会)



＜適正である＞…75%

- 自分とは違った意見を聞くことができる(PTA)
- 競争力が向上する(PTA)
- 勉学、部活動等大規模の特徴が生かされている(自治振興会)

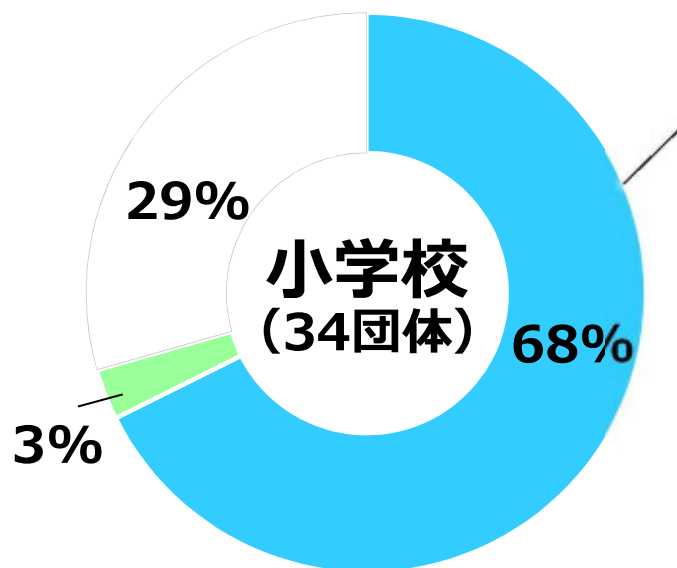
小学校、中学校共に回答のあったすべての地域で「学校規模が適正である」と回答。

■ はい □ 未回収

アンケートまとめ

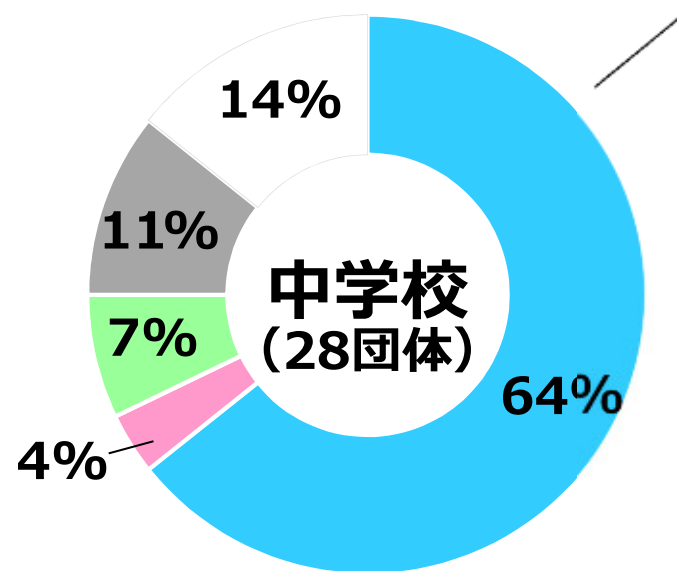
質問1で、今年度、「**適正規模**」の学校がある地域の回答の内訳

※ 標準(適正規模):1校あたり 12~18学級(※学校教育法施行規則)と考えた場合



＜適正である＞…68%

- ・クラス替えができる (自治振興会、PTA)
- ・指導がきめ細かく対応できている (自治振興会)
- ・極端に少ない (自治振興会)
- ・運動会、学習発表の規模や、子どもの出番の数が丁度よい (PTA)



＜適正である＞…64%

- ・極端に少ない (自治振興会)

＜適正ではない＞…4%

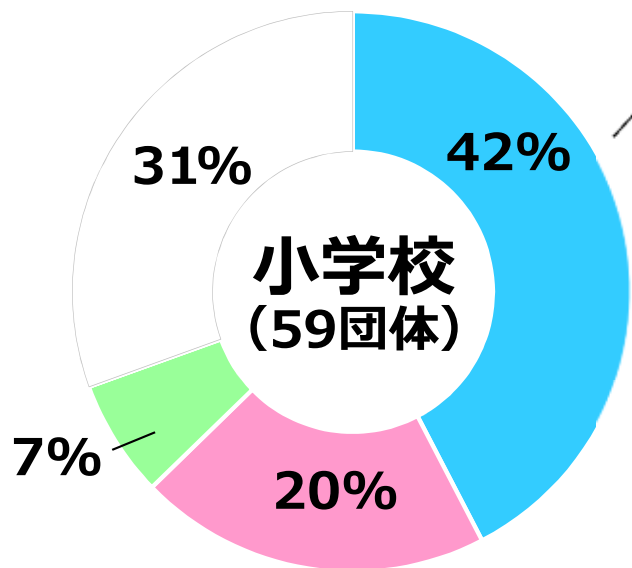
- ・他の小学校出身の生徒と交流すべき (自治振興会)
- ・高校受験のために、1クラス35人以下がよい (自治振興会)

■ はい ■ いいえ ■ どちらとも言えない
■ 未記入 □ 未回収

アンケートまとめ

質問1で、今年度、「**小規模**」の学校がある地域の回答の内訳

※ 標準(適正規模): 1校あたり 12~18学級(※学校教育法施行規則)より、小規模は、1校あたり 11学級以下と考えた場合

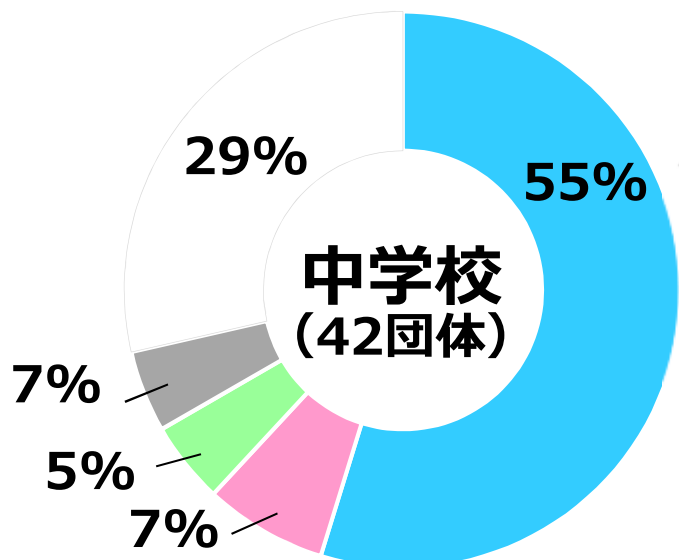


＜適正である＞…42%

- 先生が目が行き届く（複数自治振興会、複数PTA）
- 児童全体、父母間に繋がりがある（自治振興会）
- 子ども同士、親同士のつながりが良い（自治振興会）
- 複式学級が原因で学力低下は感じない（自治振興会）
- 子どもの活躍の場が多い（PTA）

＜適正ではない＞…20%

- 減少傾向であるため（複数自治振興会、複数PTA）
- 少人数、複式にデメリットあり（自治振興会）



＜適正である＞…55%

- 生徒に合わせた指導が受けられる（自治振興会）

＜適正ではない＞…7%

- 今後さらに少なくなる（自治振興会）
- 希望する部活動ができない（自治振興会）

■ はい ■ いいえ ■ どちらとも言えない
■ 未記入 □ 未回収

アンケートまとめ

質問2. 地元の小・中学校において、課題と思われること、その対応として、必要と思われること。

小学校

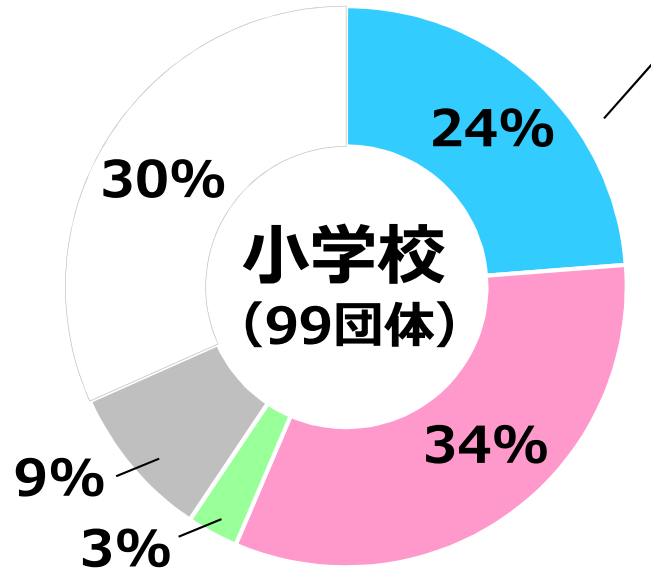
- 教員の確保、増員
- 児童数の減少、複式学級の未解消
- 通学手段の確保（スクールバス等の導入）

中学校

- 教員の確保、増員
- 交流事業の実施・増加（他校、地域との交流）
- 施設の改善（施設の老朽化、グラウンドの拡張）
- 通学手段の改善（自転車通学の許可）

アンケートまとめ

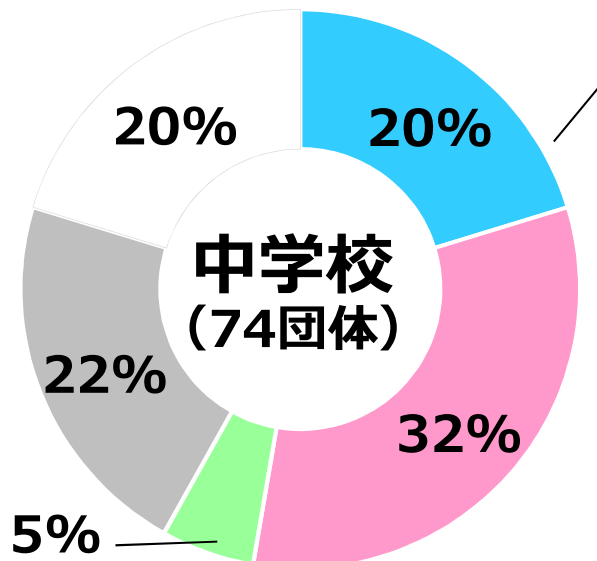
質問3. 今後あらためて個々の学校単位で説明・意見交換の場が必要と思いますか？



<はい> …24%

- 将来の統廃合の計画について (自治振興会)
- 他の小学校において、統廃合の必要性が出た段階で意見交換できればよい (PTA)
- 他校の好事例や問題への取り組みを共有できればよい (PTA)

<いいえ> …34%



<はい> …20%

- 将来の統廃合の計画について (自治振興会)
- 小中一貫校、義務教育学校のメリット・デメリット (自治振興会)
- ネットを活用した学習について (PTA)

<いいえ> …32%

■ はい ■ いいえ ■ どちらでもない
■ 未記入 □ 未回収

アンケートまとめ

質問4. その他、本市の教育に関するご意見等がありましたら自由に記載してください。

その他の意見

<教育>

- インターネットやSNSに関するトラブルの事例、解決方法やゲームや動画視聴の時間が長くなることに対する有効な情報を数多く発信してほしい。
- 勉強漬けが教育ではない。
特に子供達にいろんなスポーツができる場を作ってほしい。

<先生の働き方改革>

- 担任の先生の負担の大きさが心配。気軽に休めるような体制作りや授業の進捗状況の共有の方法などを工夫してはどうか。
- 先生方が働きやすい環境であってほしい。

アンケートまとめ

質問4. その他、本市の教育に関するご意見等がありましたら自由に記載してください。

その他の意見

<通学>

- 安全な通学環境を作ってほしい。

<その他>

- 教育委員会だけでなく、市長部局と連携し、地域の活性化と小中学校のあり方、配置等を考えてほしい。
- 地域の特性を生かしながら、魅力ある学校・地域づくりを共に考えなければいけない。
- 子供達に防災意識を高める上で、防災講座を取り上げてほしい。

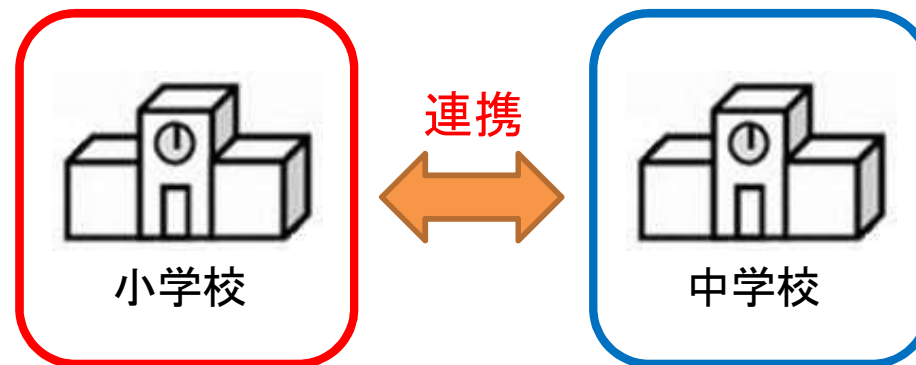
小中連携教育とは？

資料4

小・中学校段階の教員が互いに情報交換や交流を行うことを通じて、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指す様々な教育

6+3

- ・小学校、中学校がそれぞれ存在する。



例 芝園小・芝園中

小学校と中学校の連携

- ・子ども → 小中合同挨拶運動
- ・先生 → 互見授業、合同研修 など

義務教育学校における 小中一貫教育とは？

小中連携教育のうち、小・中学校段階の教員が目指す子供像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を目指す教育

(例)

4 + 3 + 2

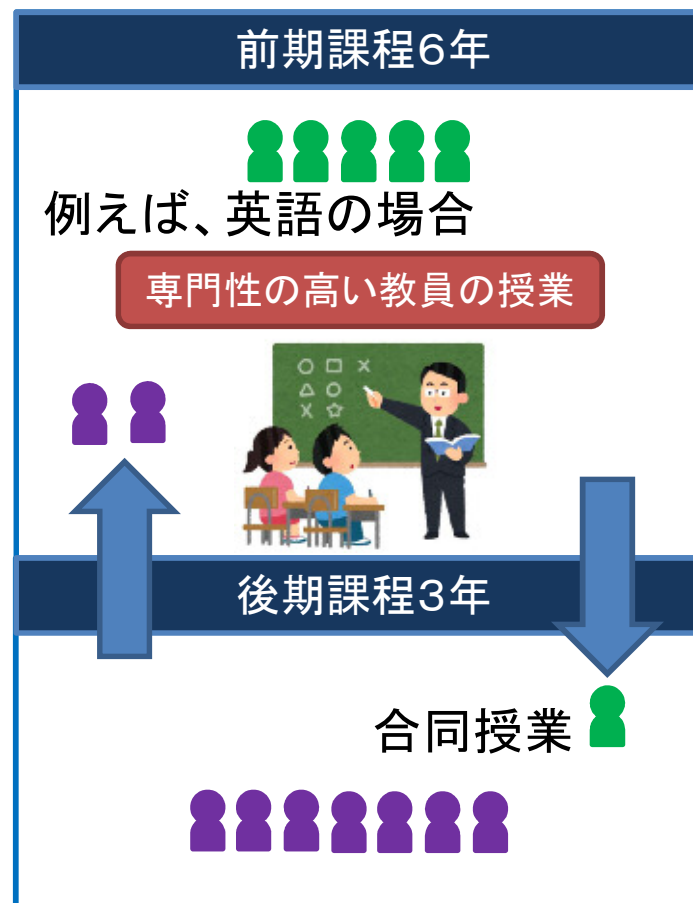
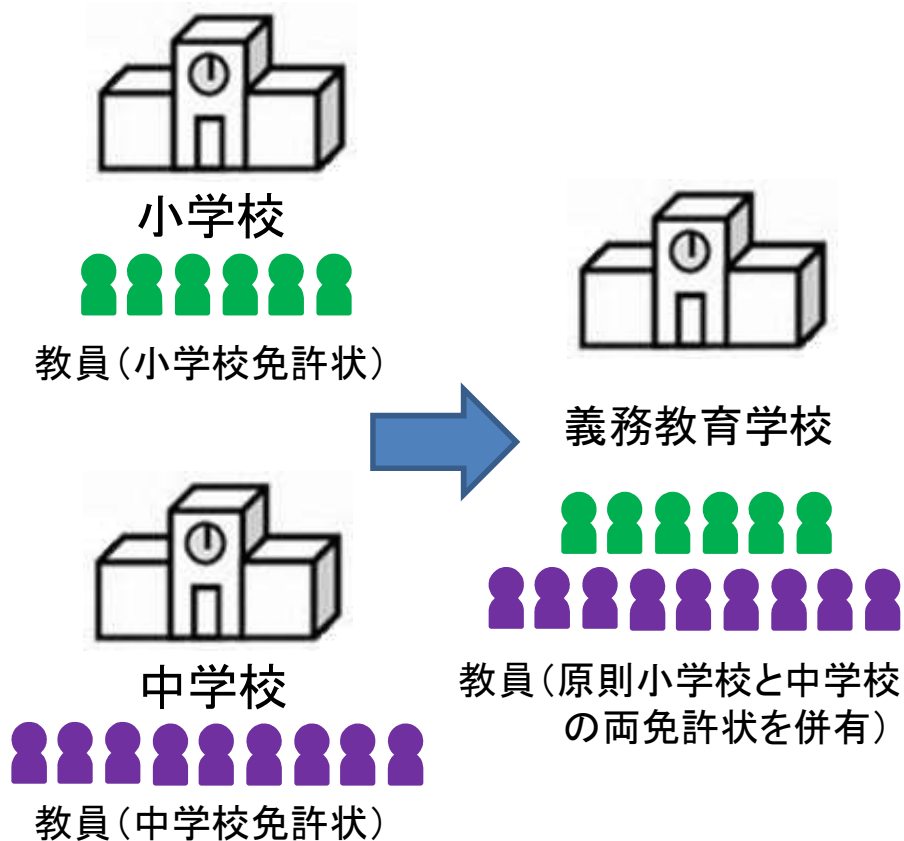
- ・小学校と中学校を含めた一つの学校



義務教育学校

義務教育学校のメリット ～教科担任制～

①教科担任制の充実



義務教育学校のメリット

②中1ギャップの緩和



③部活動の活性化



④充実した進路学習



⑤交流活動の広がり

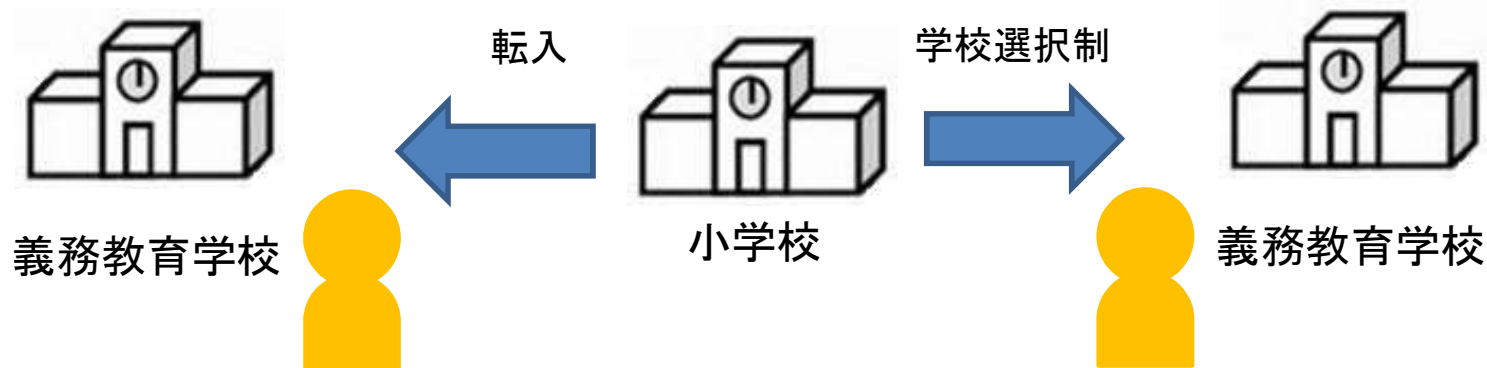


義務教育学校のデメリット

転入生・学校選択制の問題

指導内容の入れ替え・移行が可能

人間関係の固定化



- ・途中の転出入の問題
- ・人間関係の固定化
- ・6年生のリーダー性・モチベーションの低下